



北重
時代
漢談

右之種は神史の先年より
 後より後より後より後より
 右の種は神史の先年より
 後より後より後より後より
 右の種は神史の先年より
 後より後より後より後より

板

13
3031
2





七編上

外題の二雨出

丙辰
新獲



北
三
三
後

七
編
上

廿
日
廿
日

新
獲

新白根の雪の山を歌ふ

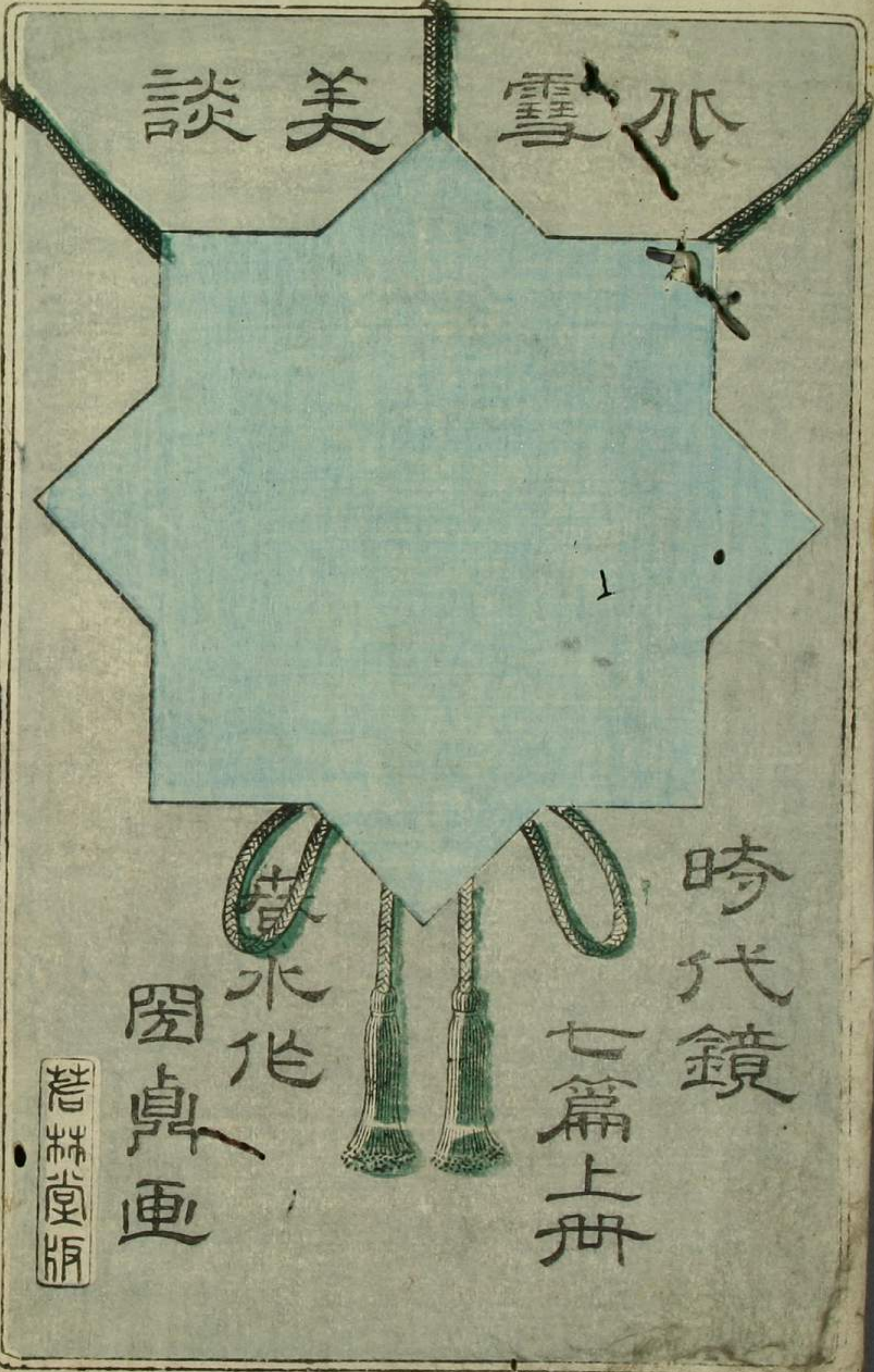
加賀の國白根山

古今集の躬恒が歌を余所小の意や渡らん
をら山のぬれ見くもわらぬ我身はほらば詠歌
小のこをきよ白山雪若友冬といふ名は仮小設つ這卷
中の一貫目とし奸賊藤原浪由縁之丞小照對さるる
腹稿るりしも六篇を左と右と餘談不緯の繁
しつものぞ那身小おとがさるる這篇より友冬が身
小換命成るるがうちて奸賊鋤き邪と正しつ小柱石の
臣とるるの其一端と編出せ北雪美談と表題せし
小意小漸く愜えんことをおもひるるも不勝へ地利も
知らぬ北國咄しぬれ見くもわらぬ我身は白根の雪
淡墨小して唇をさすつ措支るる

安政三檢 丙辰暹月

爲永春水誌

美談 雪爪



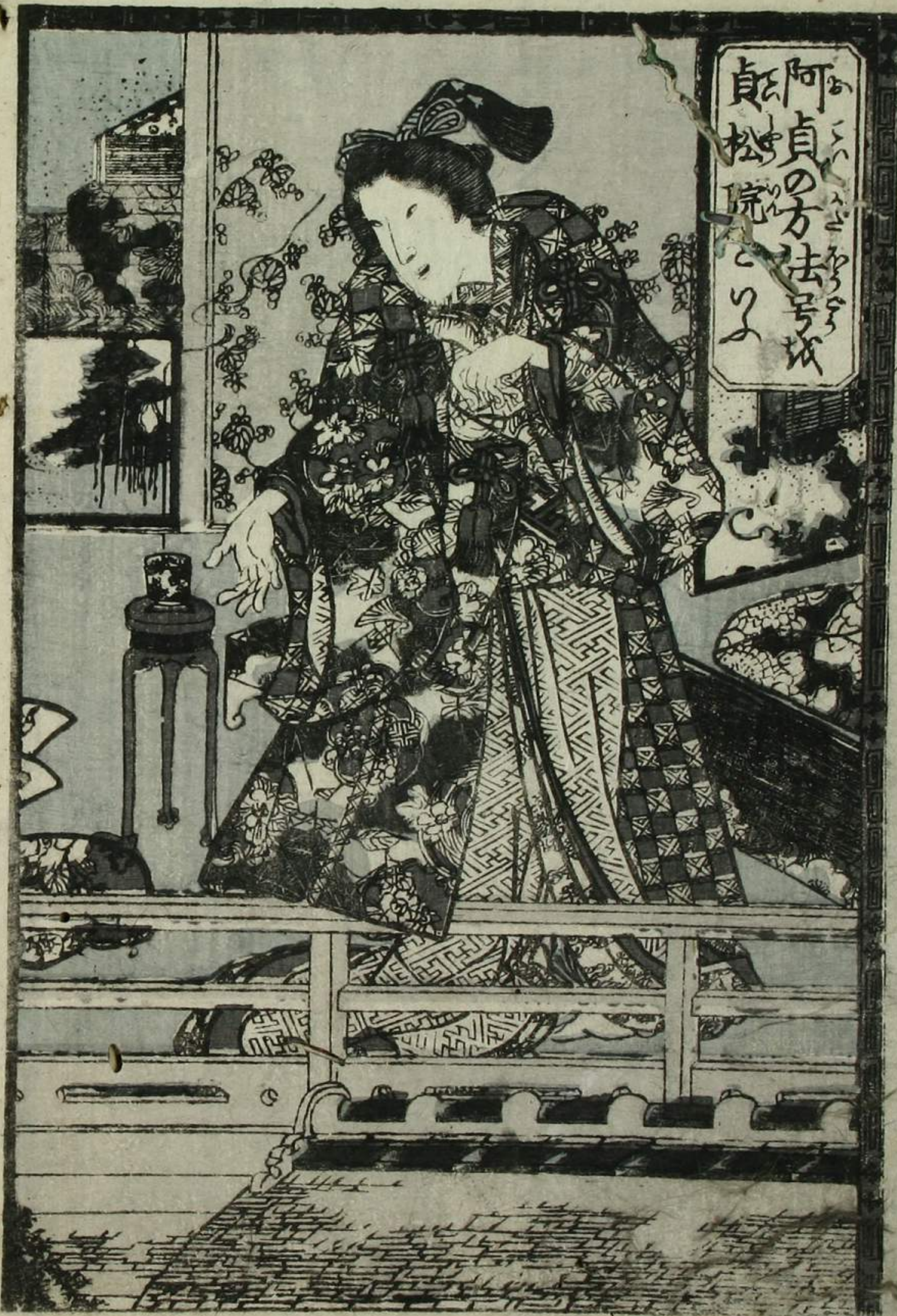
時代鏡

七篇上冊

景水作

因真画

蒼林堂印





湯尾の若黨
紫尾の若黨
輕市

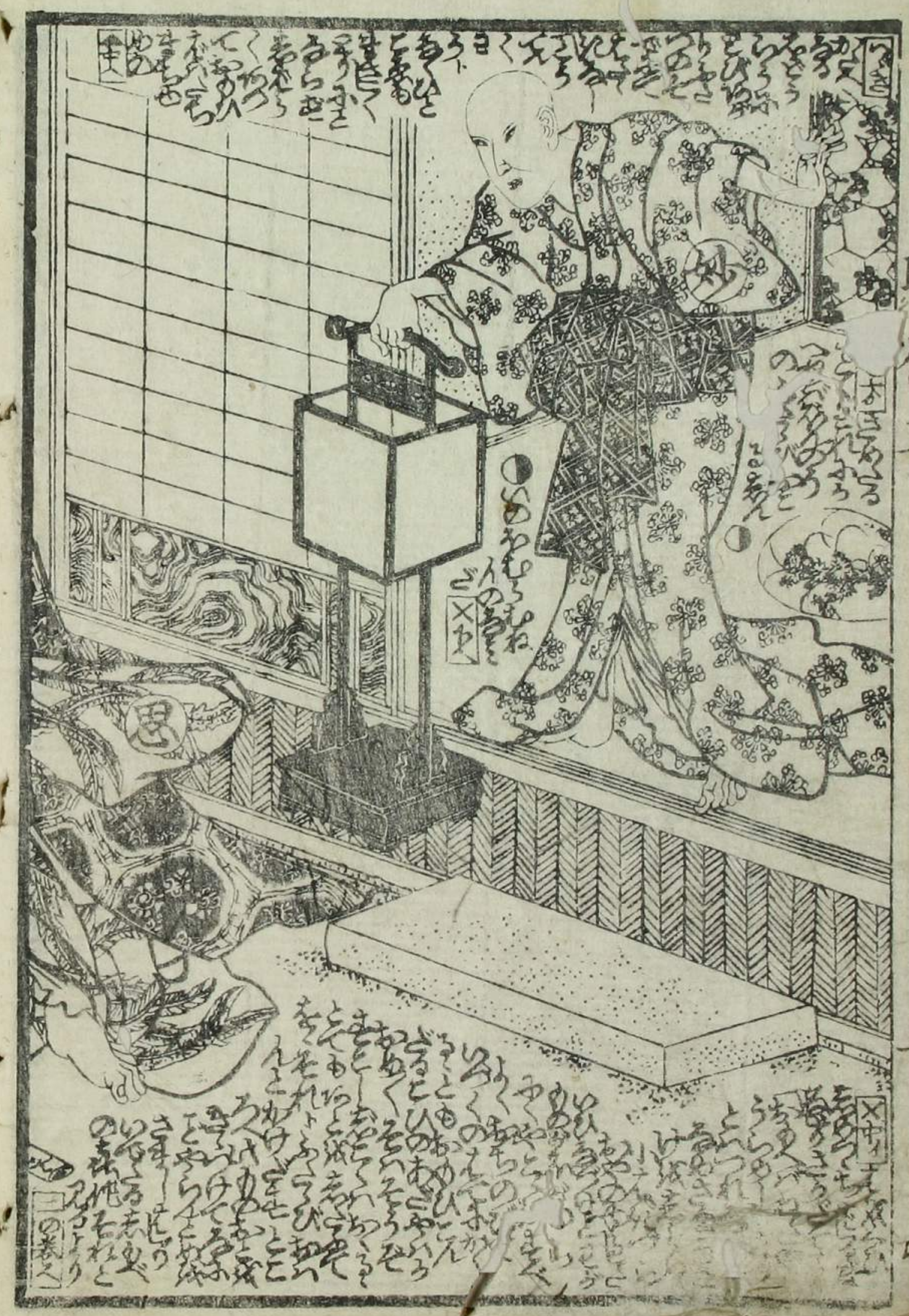
白山
雪若
友冬



湯尾の
若黨
室曾
輕平















春水作 國貞画

一名十八むさう
画の豊國

浄書
箕田
青洲

美談 時代加賀貞
春水作
國貞画

四編五編の湯尾刀監が正方を毒殺するんと做つて由縁之丞が奸智をもて故意に
毒計を破るの段の
小笹が出身の趣は続々正方の自通を小笹が荒駒に乗るより小笹白糸が試合の一段
終つて西人召抱に小笹は尾尾と改名なり白糸は新根と名を更へた花坂四郎早浪が
怨念を鴛鴦に託り由縁が奸計を助るの奇談忠臣丹下と謀るの趣は只編の丹下と謀るに
自殺するかの鴛鴦の血は正方を以て乱さず其根を妾とるその計丹下が春女に秋
が難きと鳥屋万助が娘思羽が救ふの可憐なる物語思羽が小秋の夫要之助が
戀慕の情態七編の思羽が戀情を募り鶏の姿とるその一説白山雪若が阿貞の
方ニ相計りて刀監等が隠謀を探るの方便八編の鳥屋万助
西へて買入るといふより万助が義侠の一段刀監が計られ既ふ大事の破るんと
由縁が蝶妖の術あり防ぎいよ多賀の騒乱あり

書



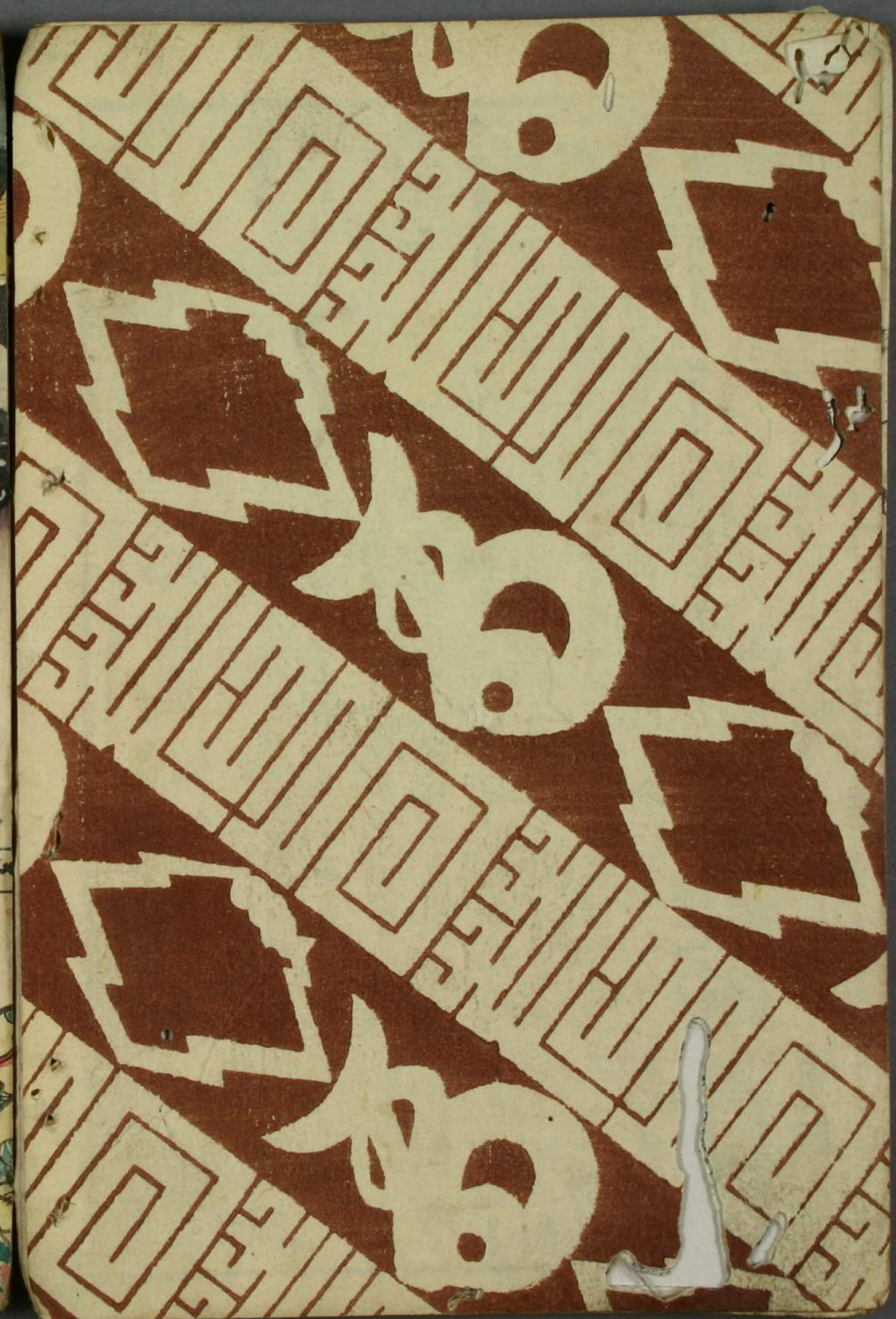
北雪時代鏡
美談

梅
紫樓
國貞
画

為永
春水

若林
文庫

下編











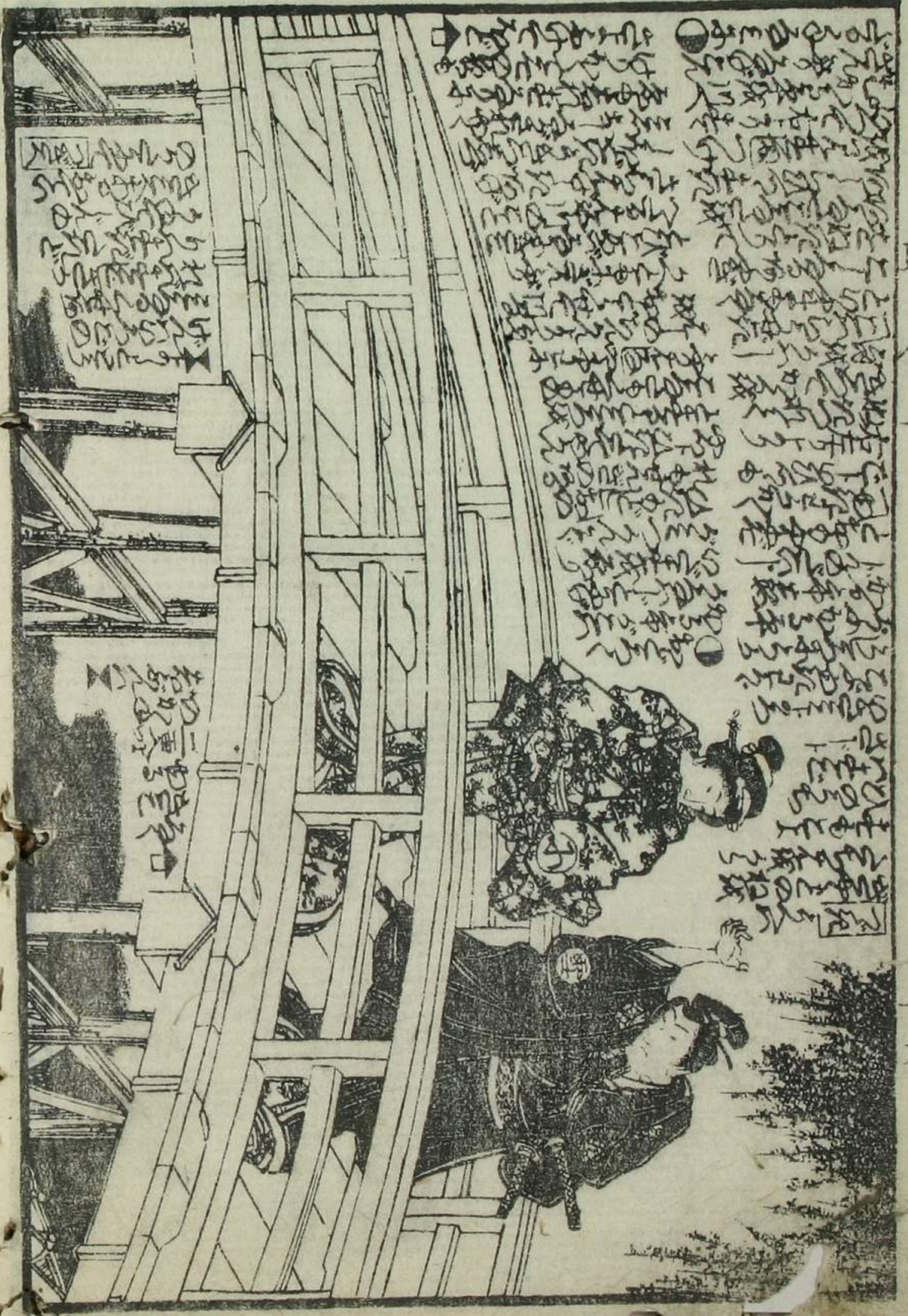
寺代



甲



舟
八
二



舟
八
二

舟
八
二



北雪時代鏡
美談

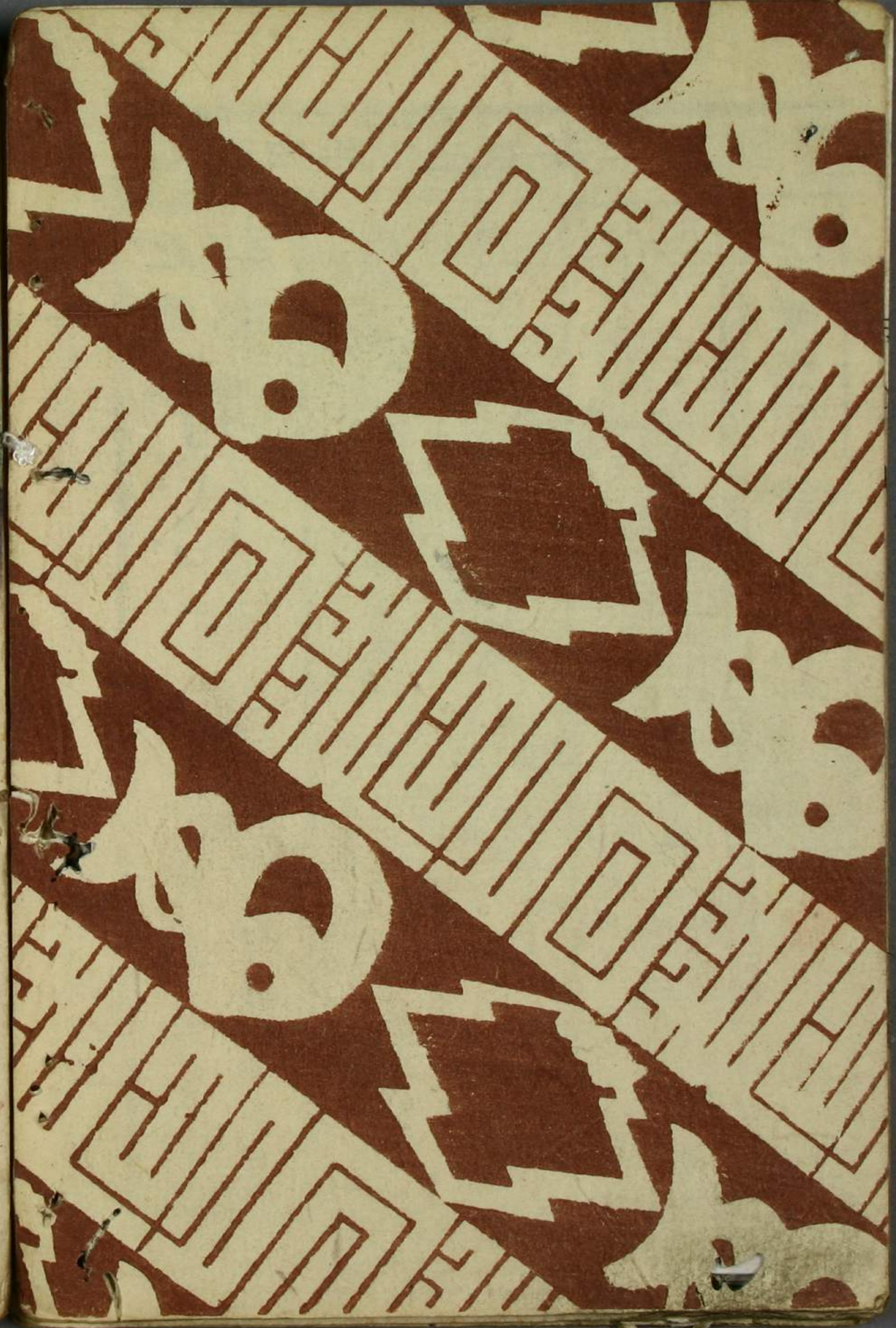
外題西立國史

丁巳
新板

梅紫樓
國史堂

為
其
化

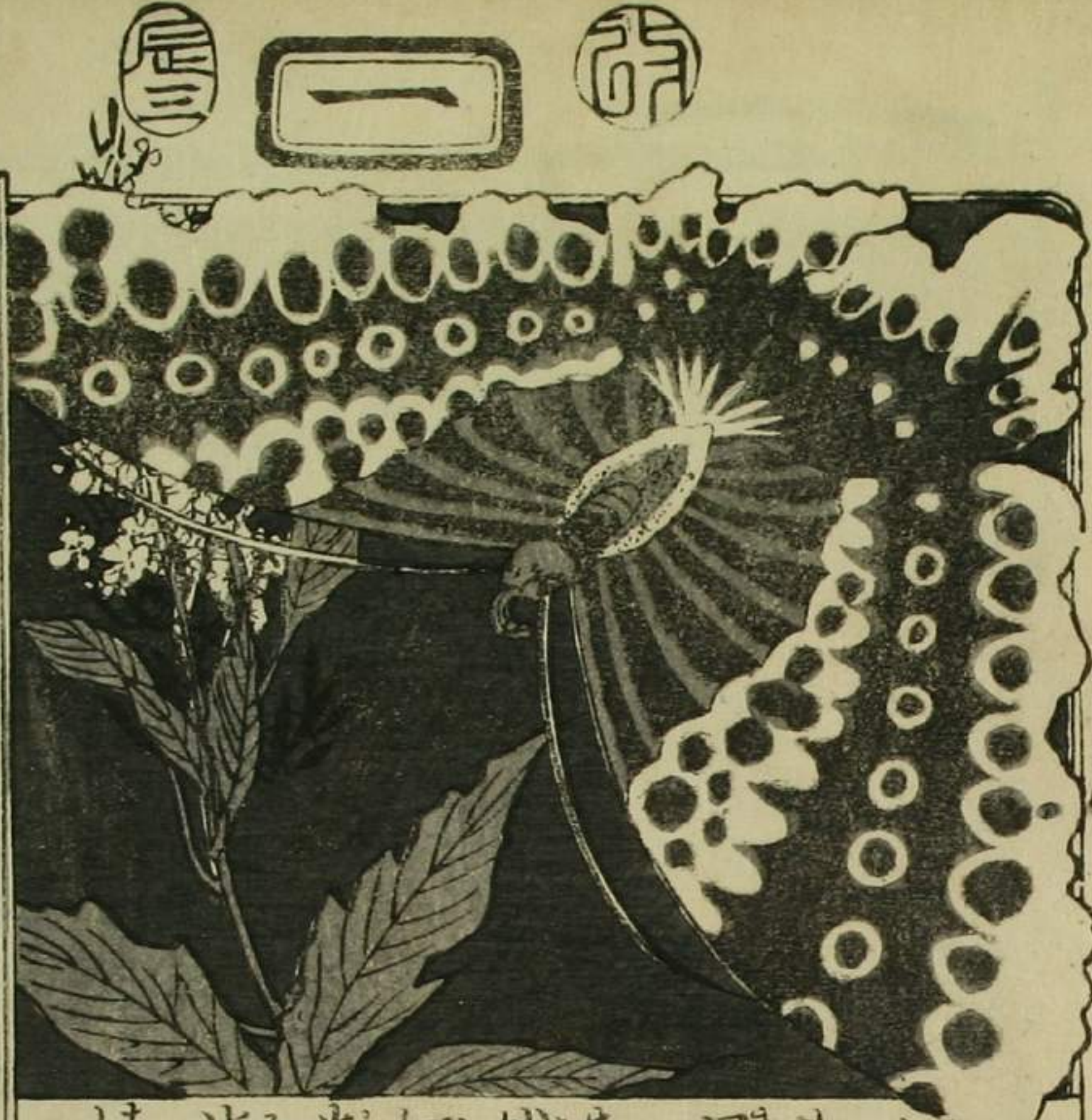
八編上



何多山の美八篇上卷

若林堂板

たんたんの虎の爪をさく
うらむふらむのたれはさく



唐山東海の黄公ハ符とて虎と役使
少年老て其術行れど終ふ虎も啖
せしとて虎も役使ははくはくは
況や由縁の蝶のこれその妙術と獲る小
をのて自在なるはとていふ竟あるまじ
然とも渠が做まところ孤忠小似て威
奸悪なり了ふその術破る小いして蝶小
啖るよりなるとも天罰争う逃えれ飛
尚後の後中々長い卒と今茲小短く
はまんを序めらるを竟あるま

飛けのこのたれ
あつたもたれ

爲永春水誦

寺



思羽が嫉妬の
怨念小秋が
身小災害做
と支第九編
具る

野沢要之助

小秋



思羽の坐



阿須香

鷹匠者
六三

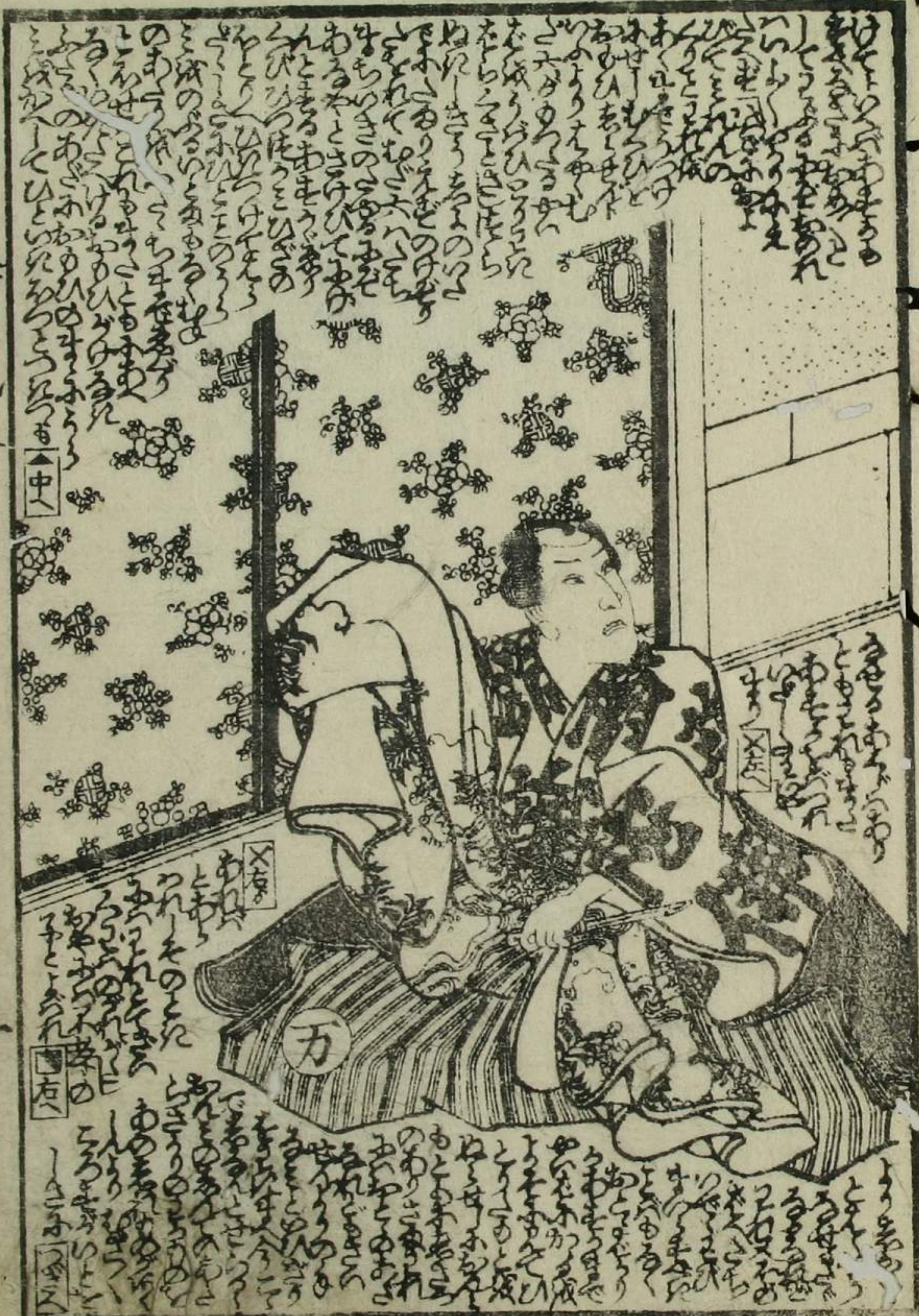


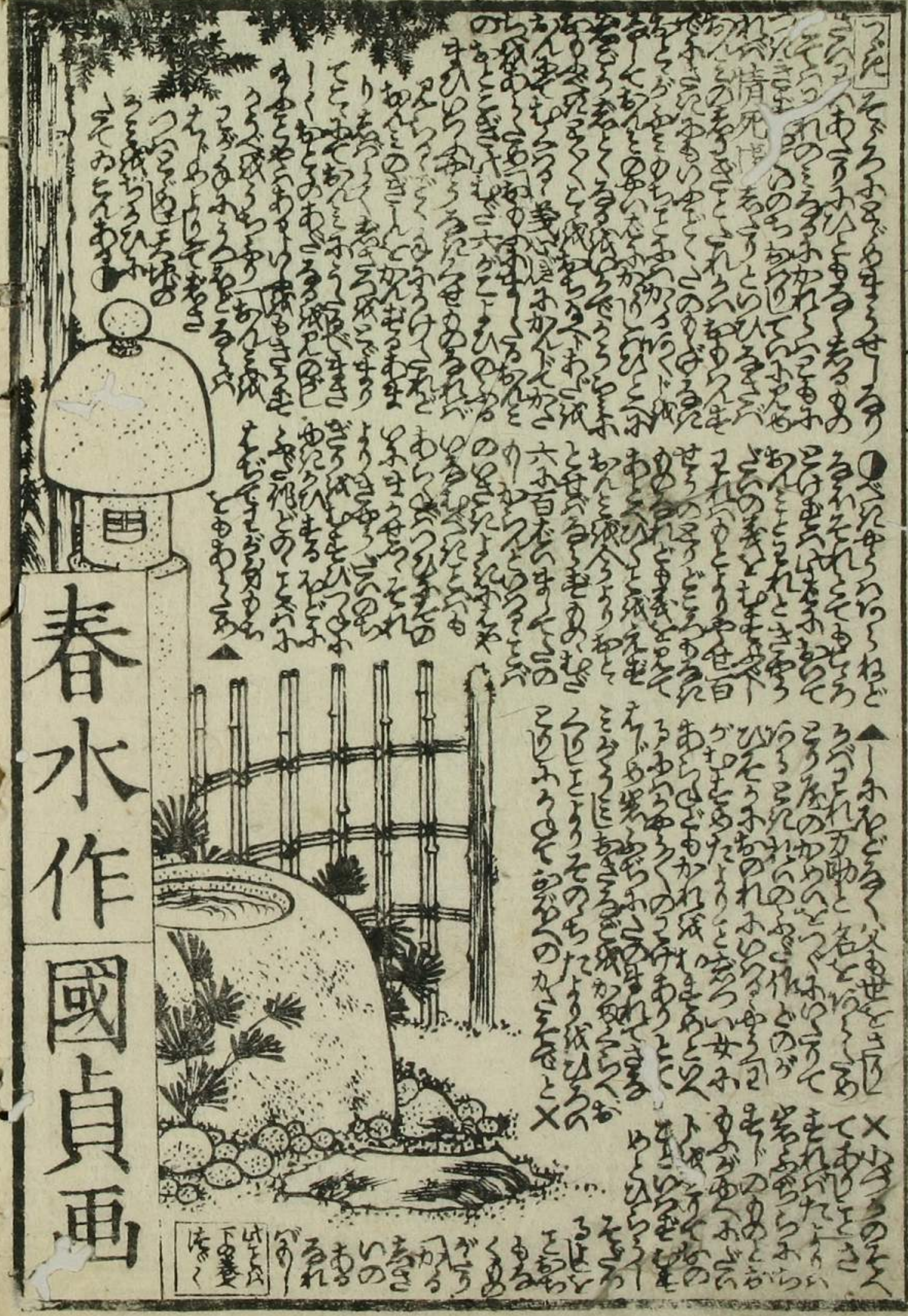
花沢新町の
歌妓

万助前名
吉吉









春水作國貞画



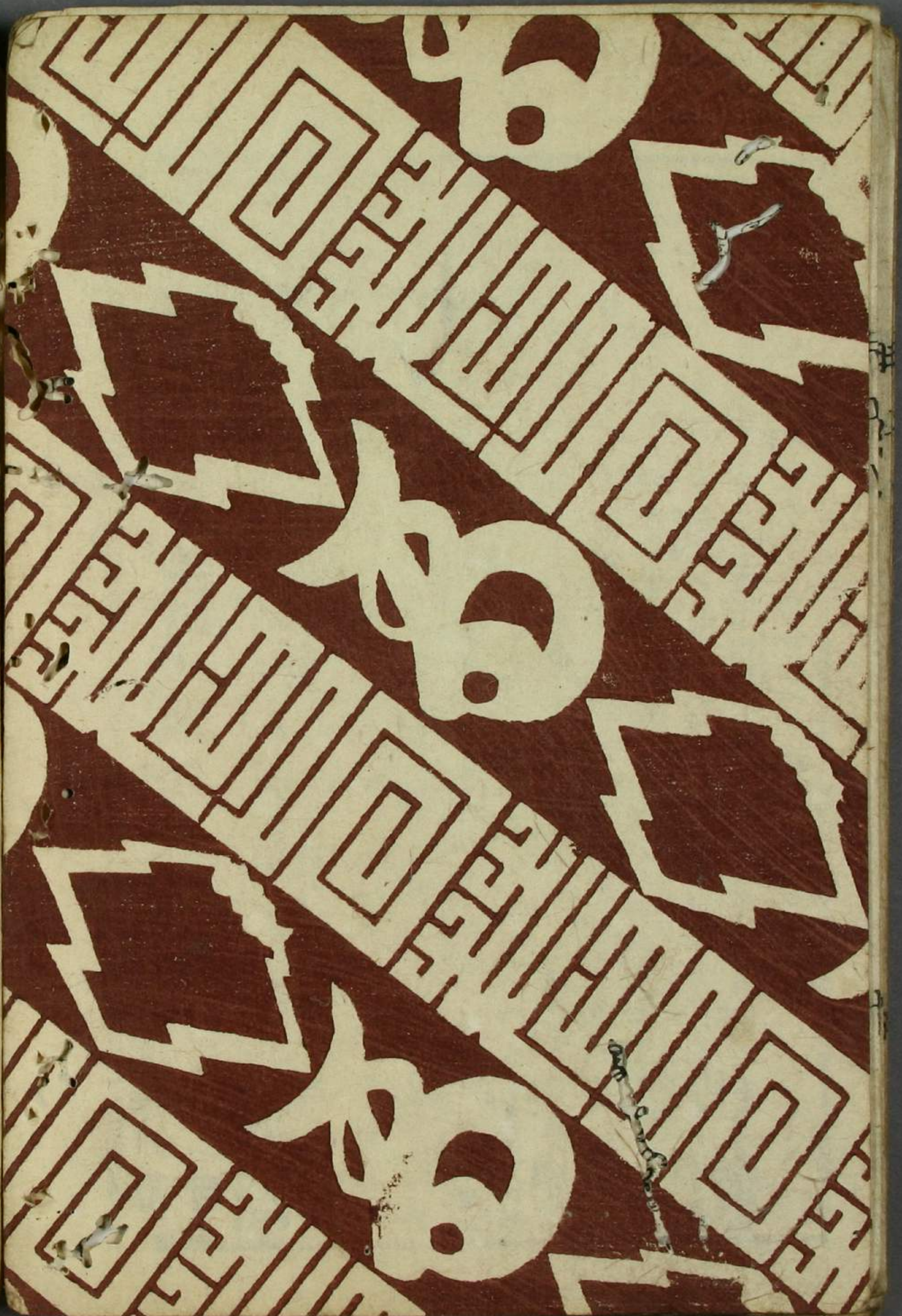
為永北雪美談時代鑑腹稿豫言 每編四局 合卷二冊

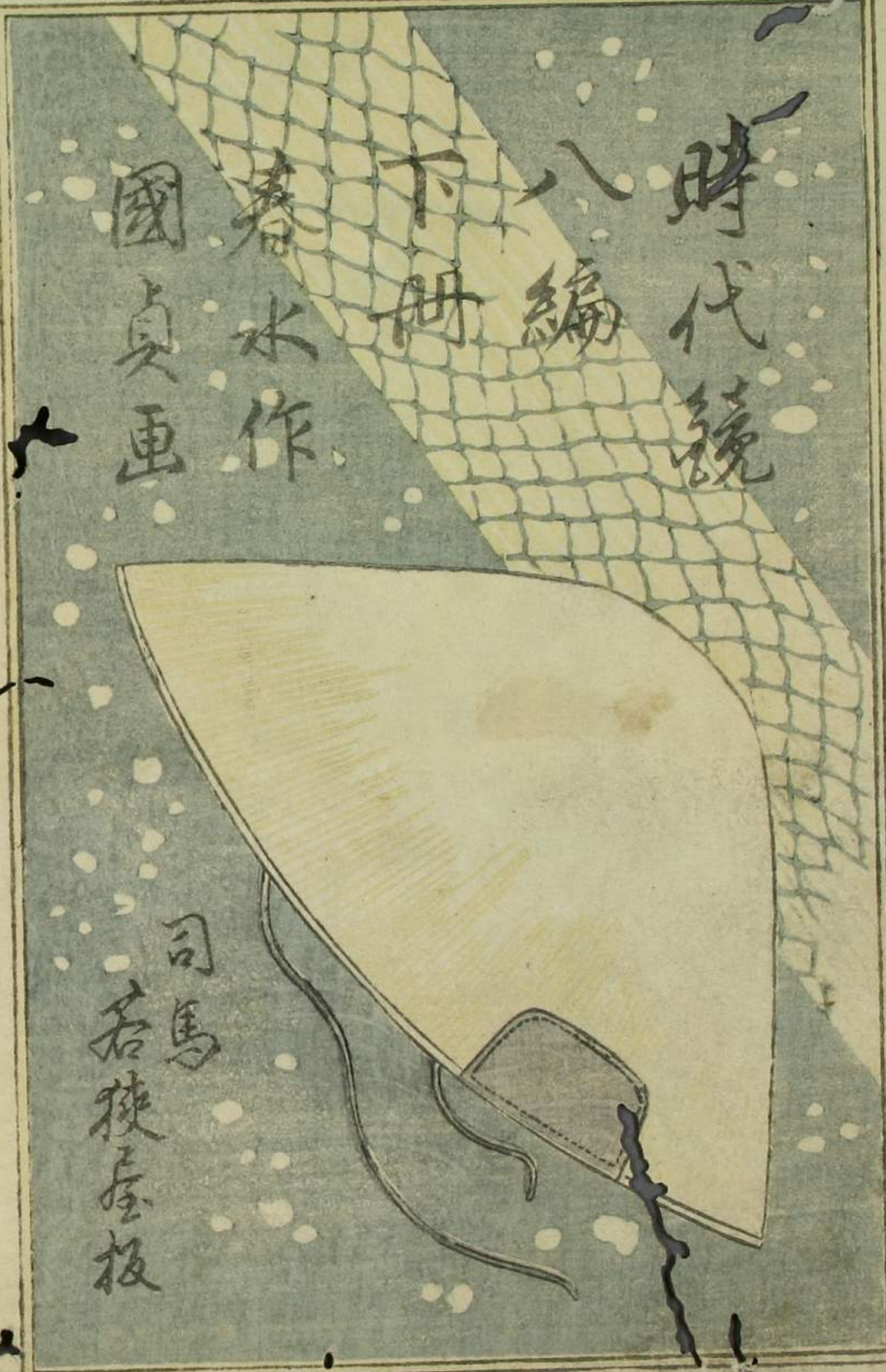
九編ハ要之助が小秋を伴ひ越後國入方村におる如法寺へ到る小聲で住僧蜂沢が奸
 悪旅放下師野良松連四郎が傳要が画一妬婦の姿繪暗小秋を苦一ひるれ
 奇談新原の娼家美女好屋おる要が酒狂人を捕むる一段遊女色衣小花の苦節千
 曲河原の果合小品七を救ひ无上太で懲と要之助の美勇十編ハ千曲河原の談つた
 一流軒が廢るあるおる王石所を異おるより血筋の糸の縁がうて品七小花が世お
 如るの段蜂沢が伎倆の条々小秋おるより迫るの邪曲阿辺加澤四郎が貪欲薄情
 十一編ハ要夫婦が心解て復厄おる患難辛苦話説愛つる由縁之丞が刀監と密話の
 おのむき無尾とたくと取換兒の苦計袖を茂羅市浅水が傳下編ハ右の二段
 の清文より口七小花が禍おる小妻娘母魔風が毒惡の説要之助が鏡倉の
 正香丹の郎と交名一と劍術の道場せしむる百姓加助を患心の段より蜂澤
 无上太がうみ及ぶ這十三編十四編おも至るべき長談あり總て右の物語
 うら小前根重若阿貞の方の支ど加へ終らんのも

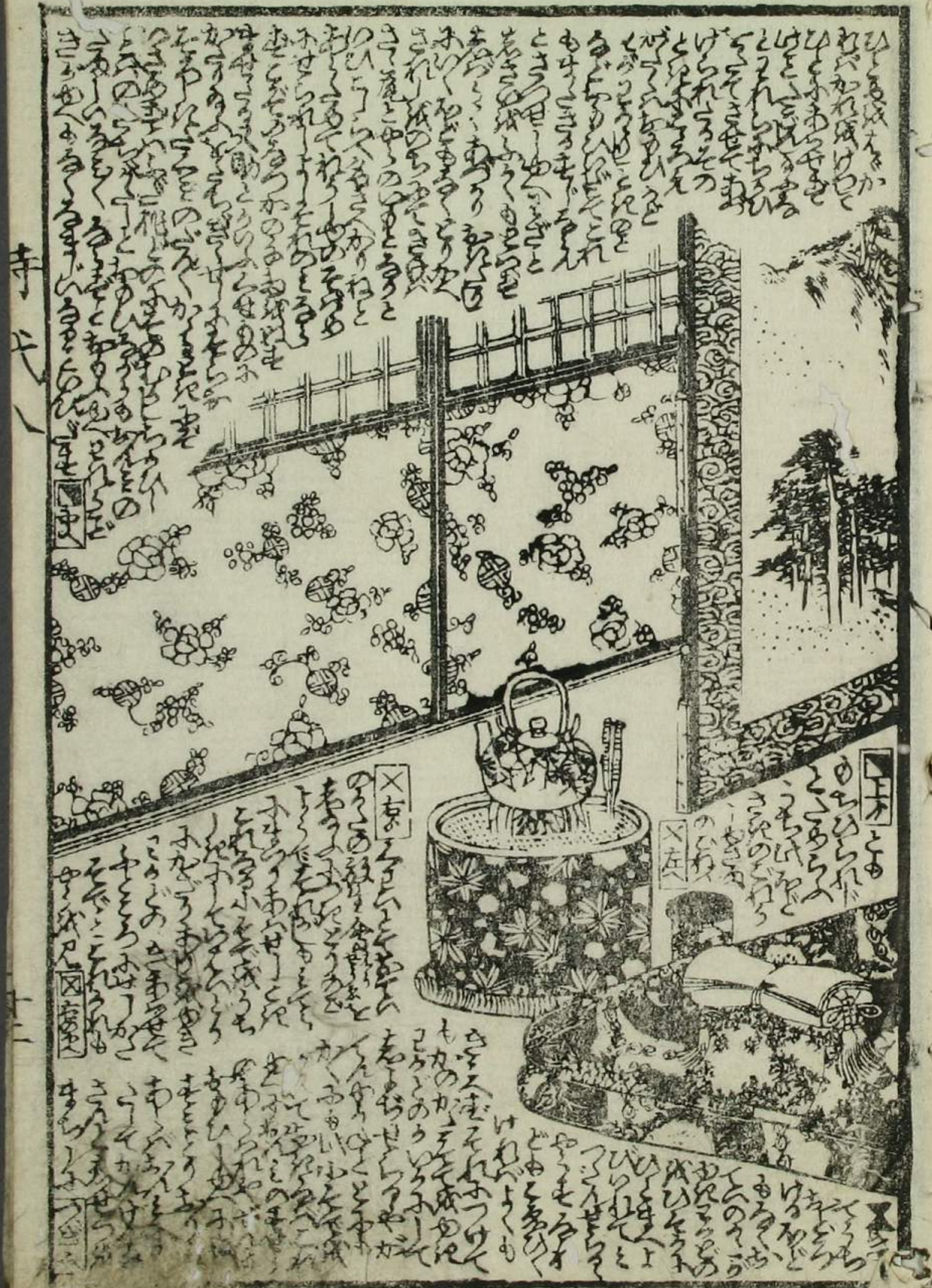


八編下

のり
あ
核





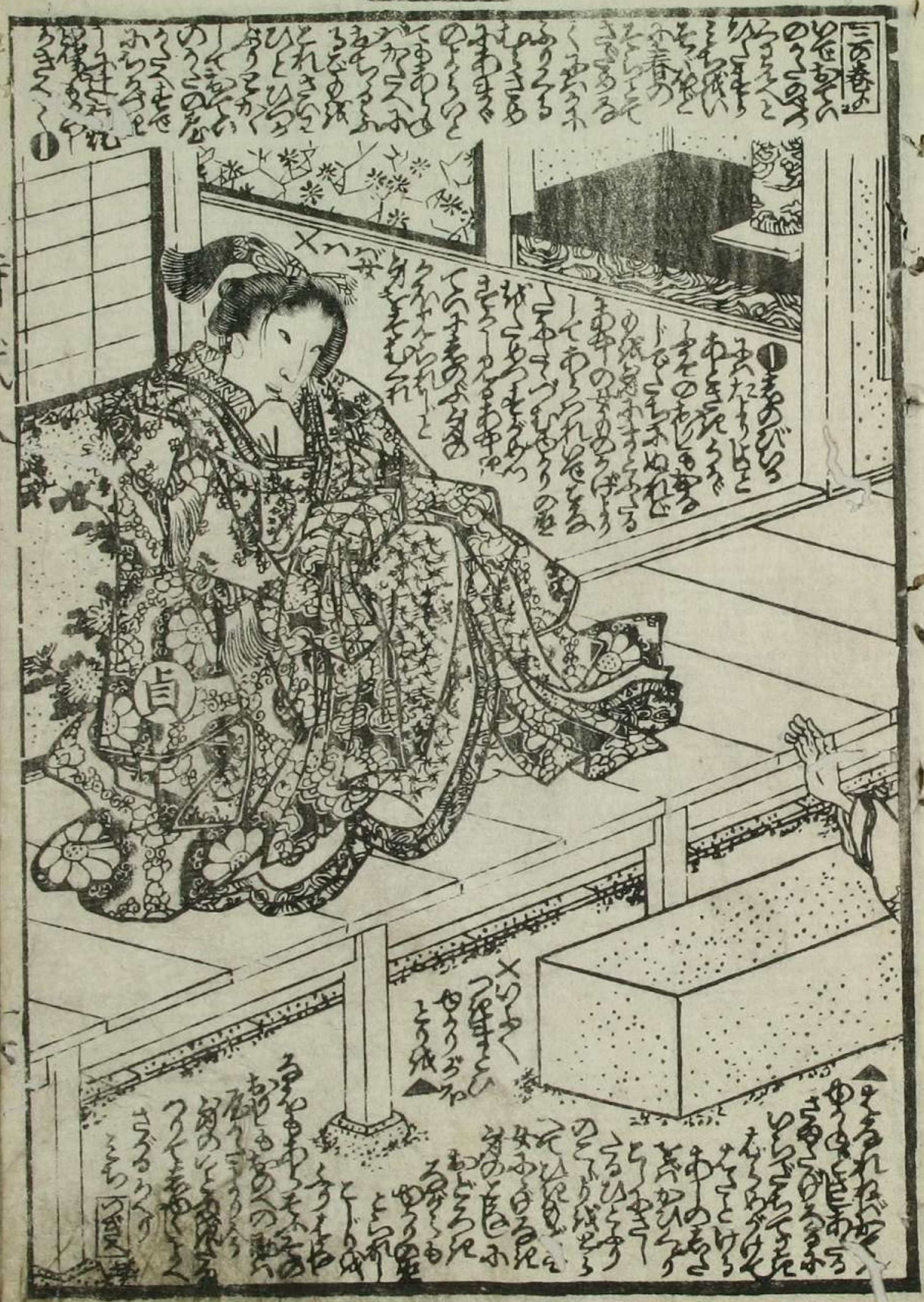


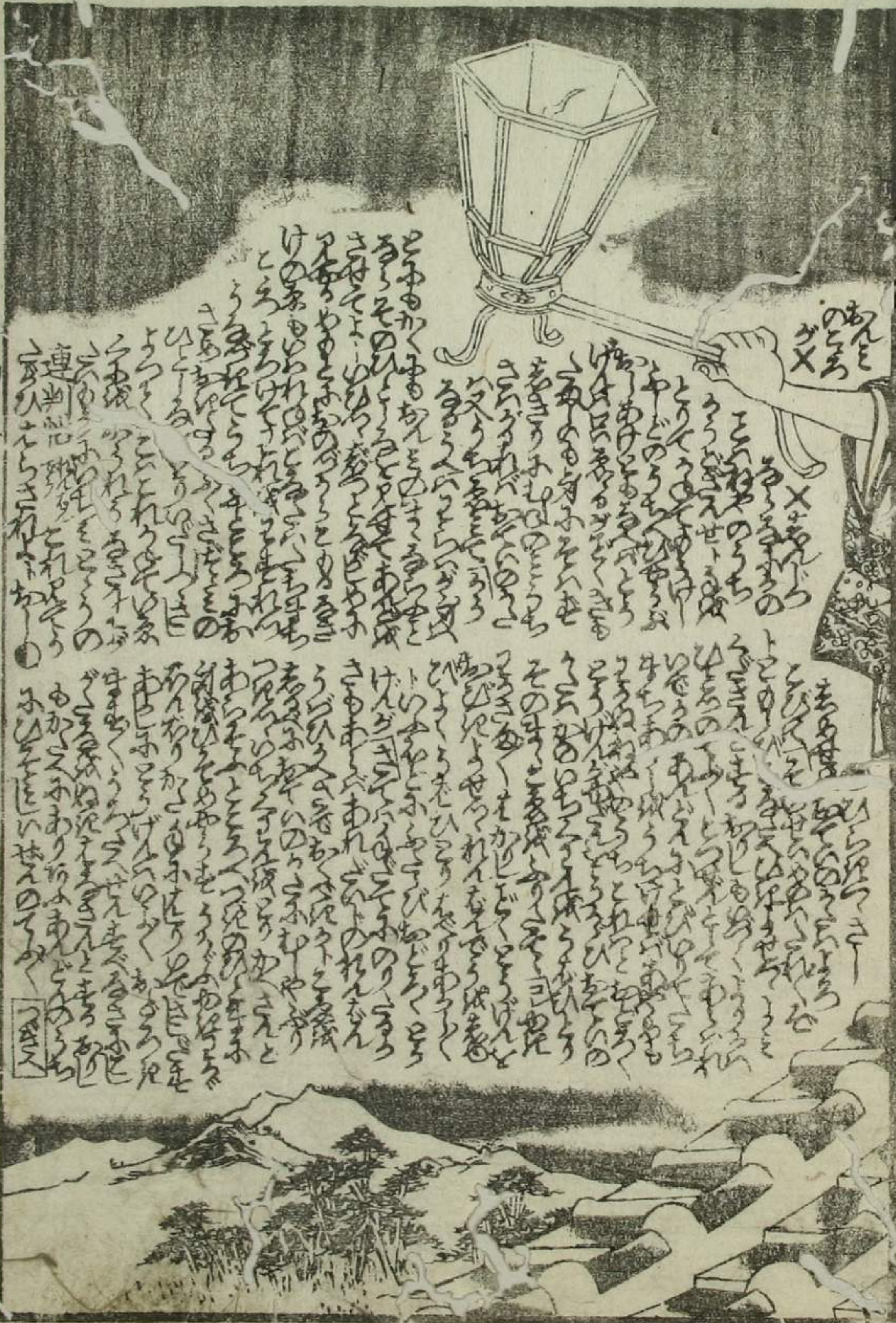
寺



寺







寺

寺



寺

寺



北登時代加賀見

外題曲豆団全

九編上

北登
美談
時代
の
み



三編

為永

生永

歌川

國貞

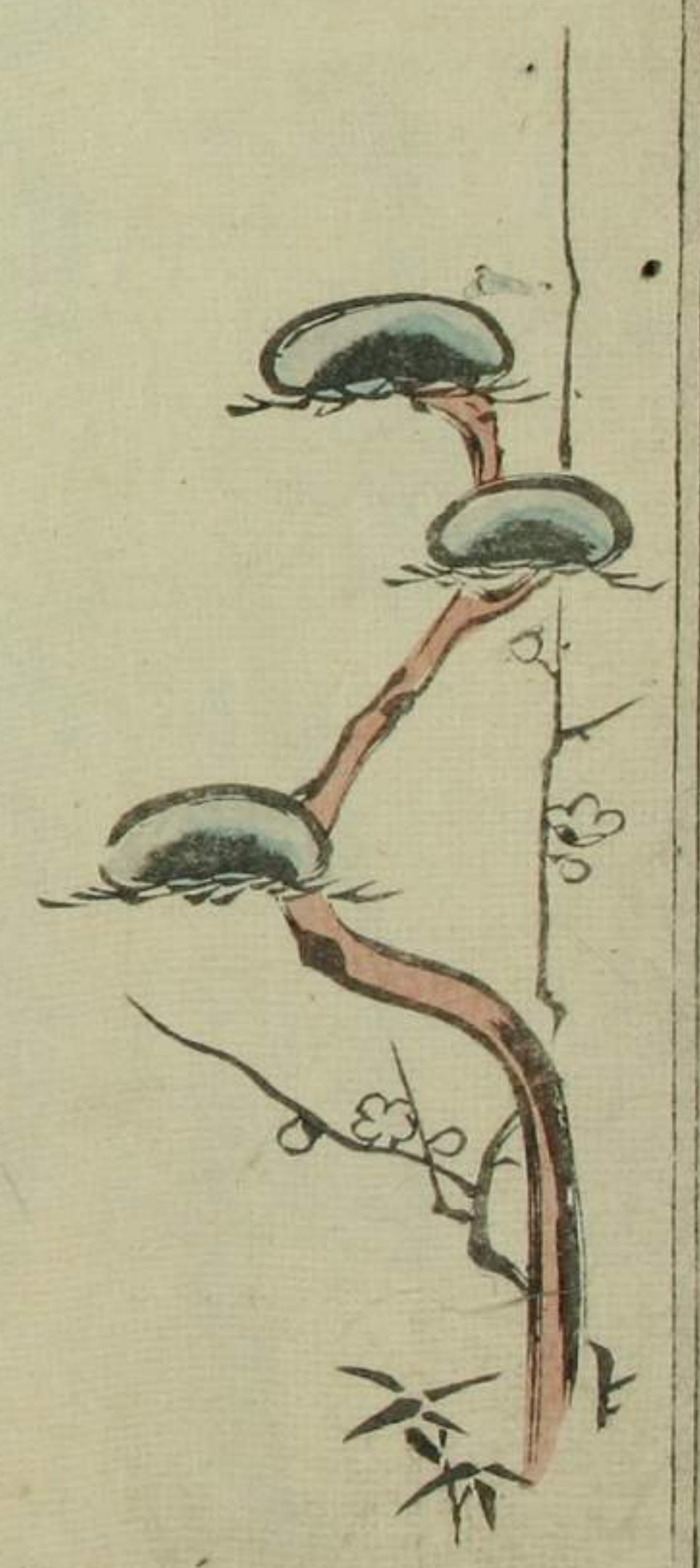
五重

乙卯新獲

名林堂梓



為永
生永



北雪美談時代 鏡第九編上之卷

為永春水作
歌川國貞畫

若林堂發行

野客叢書小云。朱小近紅もの赤く墨小近きもの黒くと實や
 人の本性ハ譬ハ糸の白きとて。是は染る友小なり。余ども惡友
 得易くして良友ハ得易くしむ。得がたき友と撰ぶより書成讀
 如くものなる。既小法也の法師も。灯の下小史とひろげ見ぬ世の
 人を友とせんとらん。然ハ思へども予も又生得下根下智あるも久く聖經
 賢傳小倦く眼と止り得む。只管稗史小説の座右の友と做しつるが
 原是稗史ハ寓言なれども。つづきの策子讀聞といふも勸懲无差別
 あり。早あり。さきを讀小まこと。稗益あり。むとりの支り。想
 俣小早晚とある。朱小交り。赤本の作者の數小入り。硯の墨小
 近づけど。黒人ある。尚青紙。書房が棄む。這冊子の嗣輯と編
 請ら。復第九編の稿ともの。

安政四稔丁巳初春發市

為永春水記

寺代乙

寺
七
乙

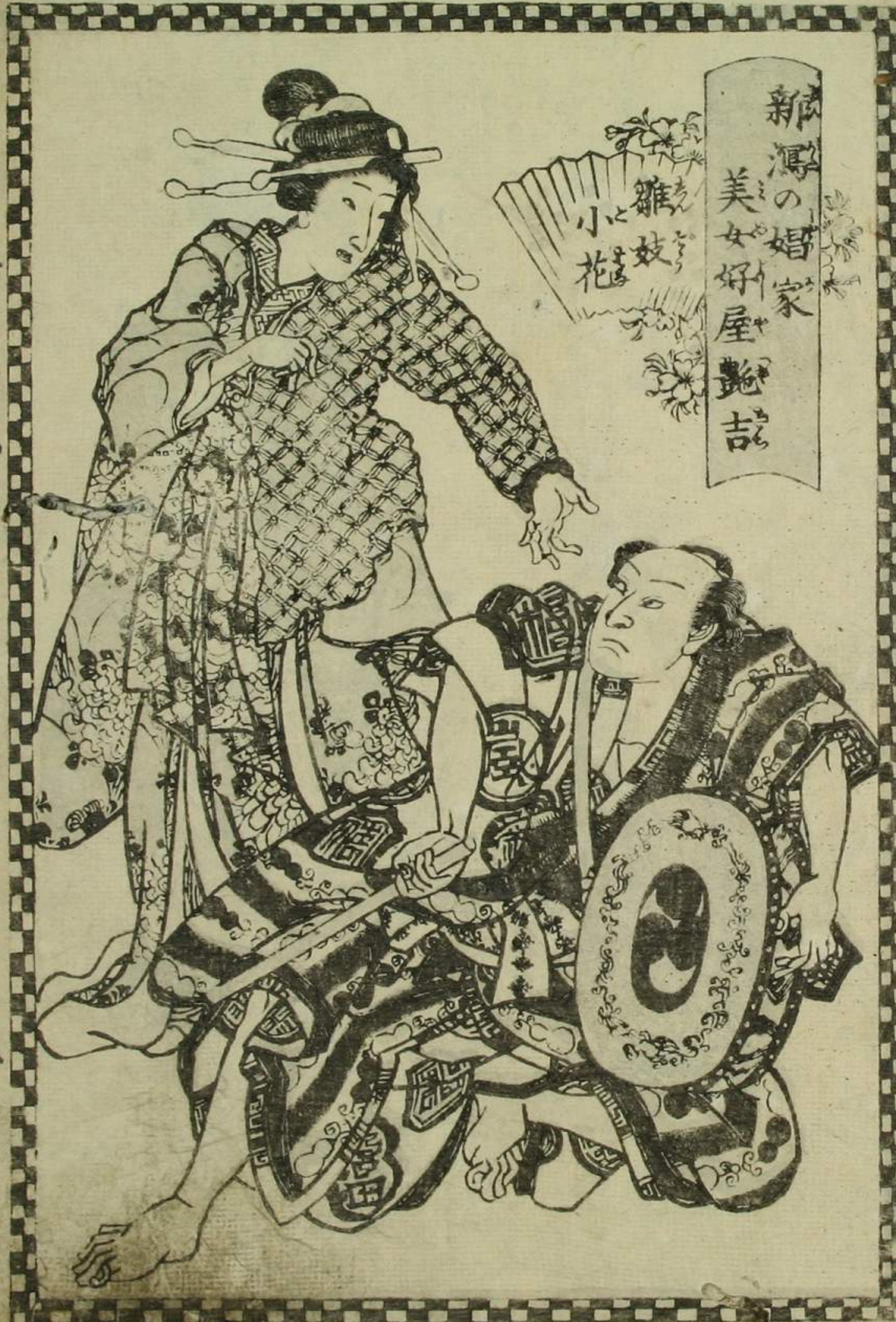


美女好屋の色衣
 醉狂士某
 姓名未詳
 至後可具

松旅蜂如
 遅放澤
 四下師
 郎師野
 郎師野
 良
 住僧



田
八
丁



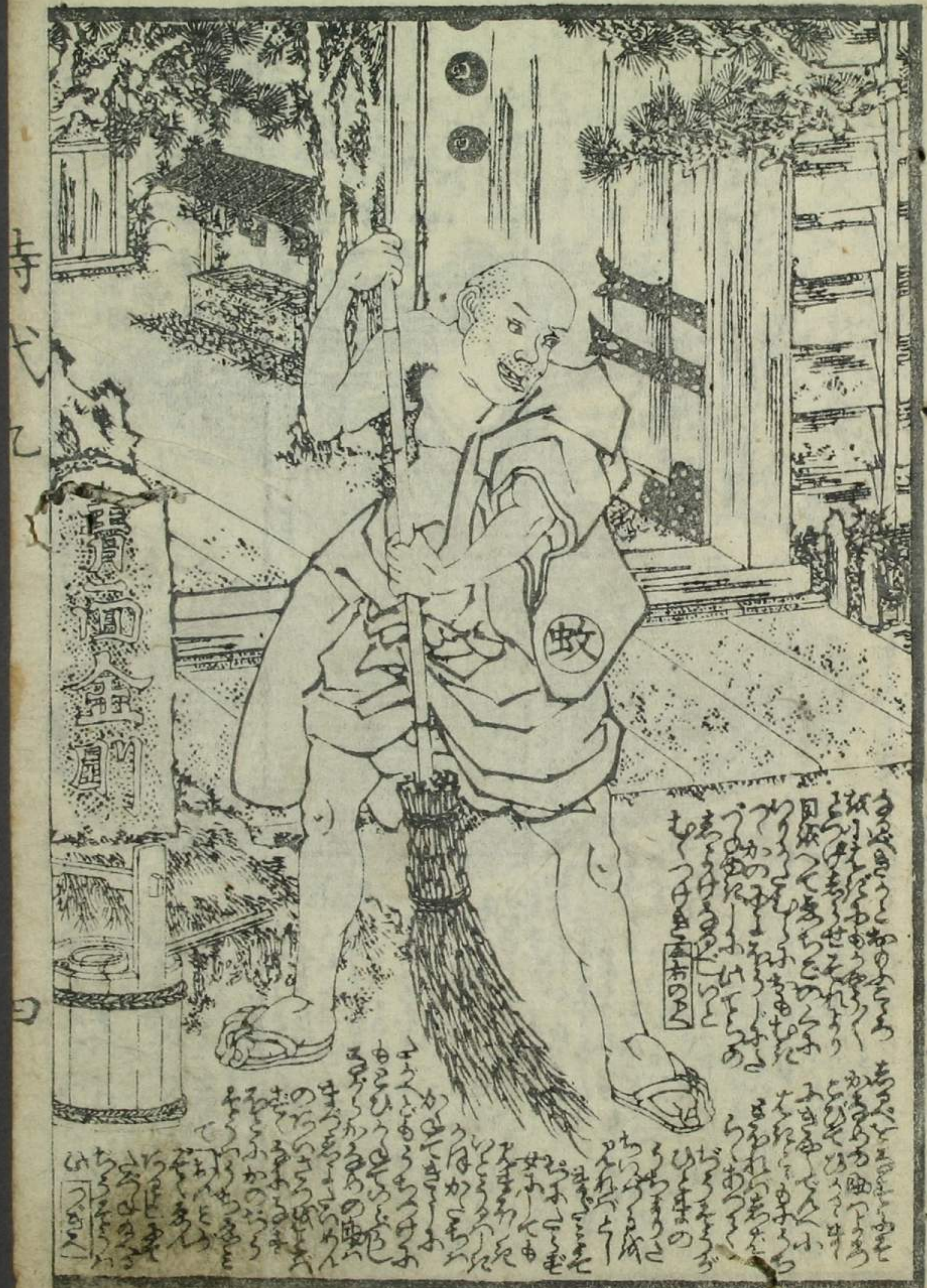
新
 瀧の婚家
 美女好屋艶吉

雛妓
 小花



上
 无
 荒太
 武

早
 柳
 品
 七
 女
 文

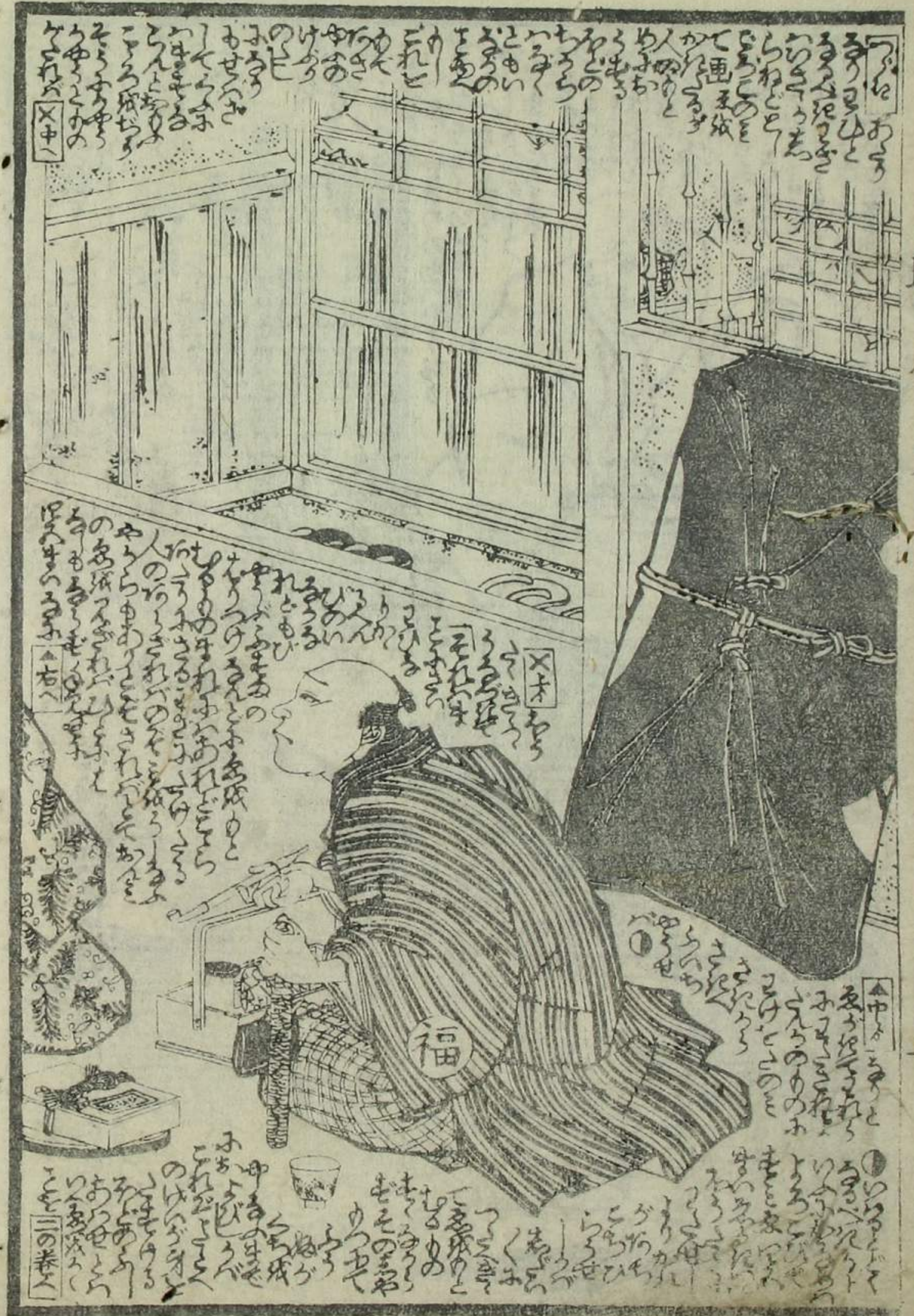


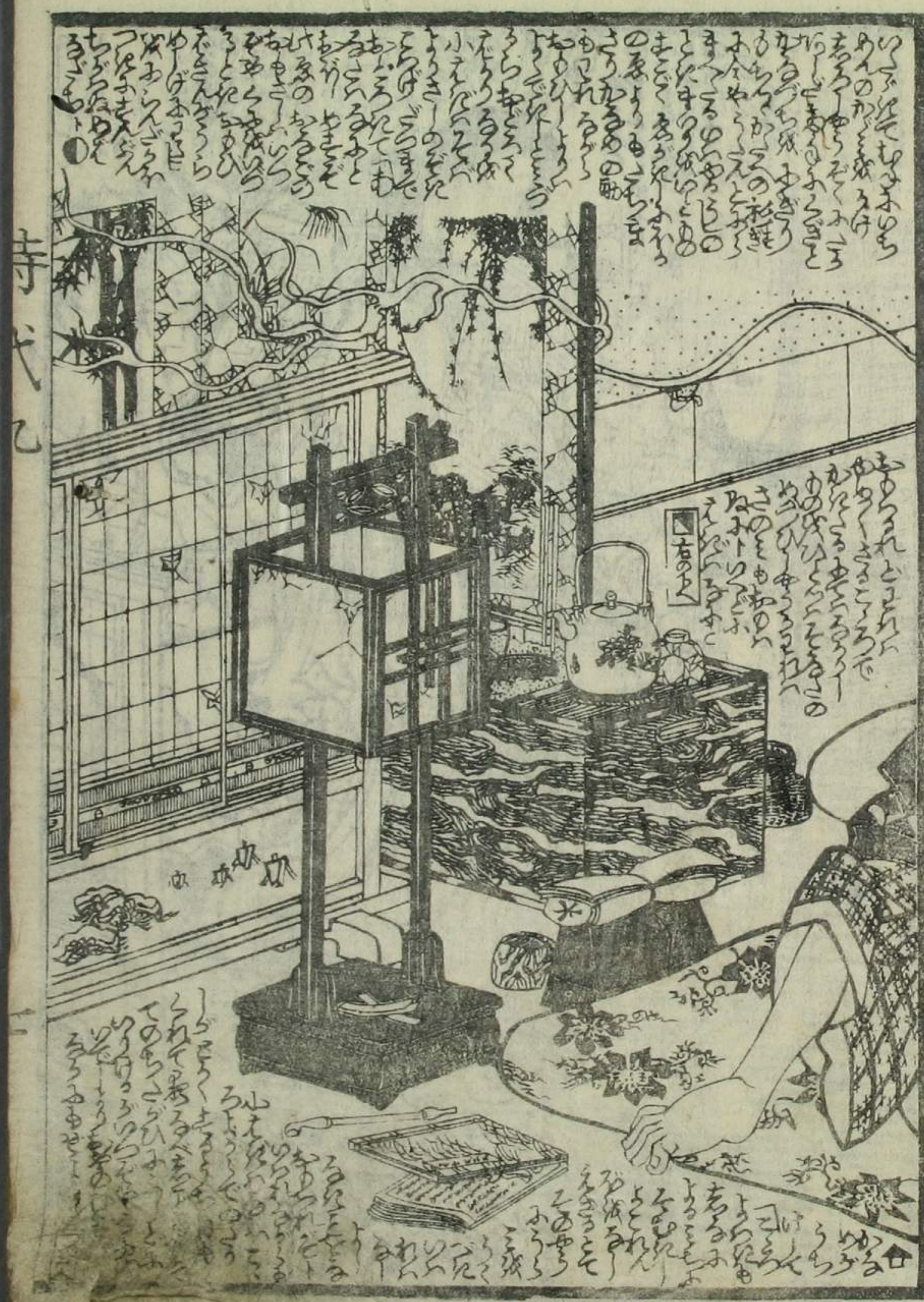


寺代九



目下

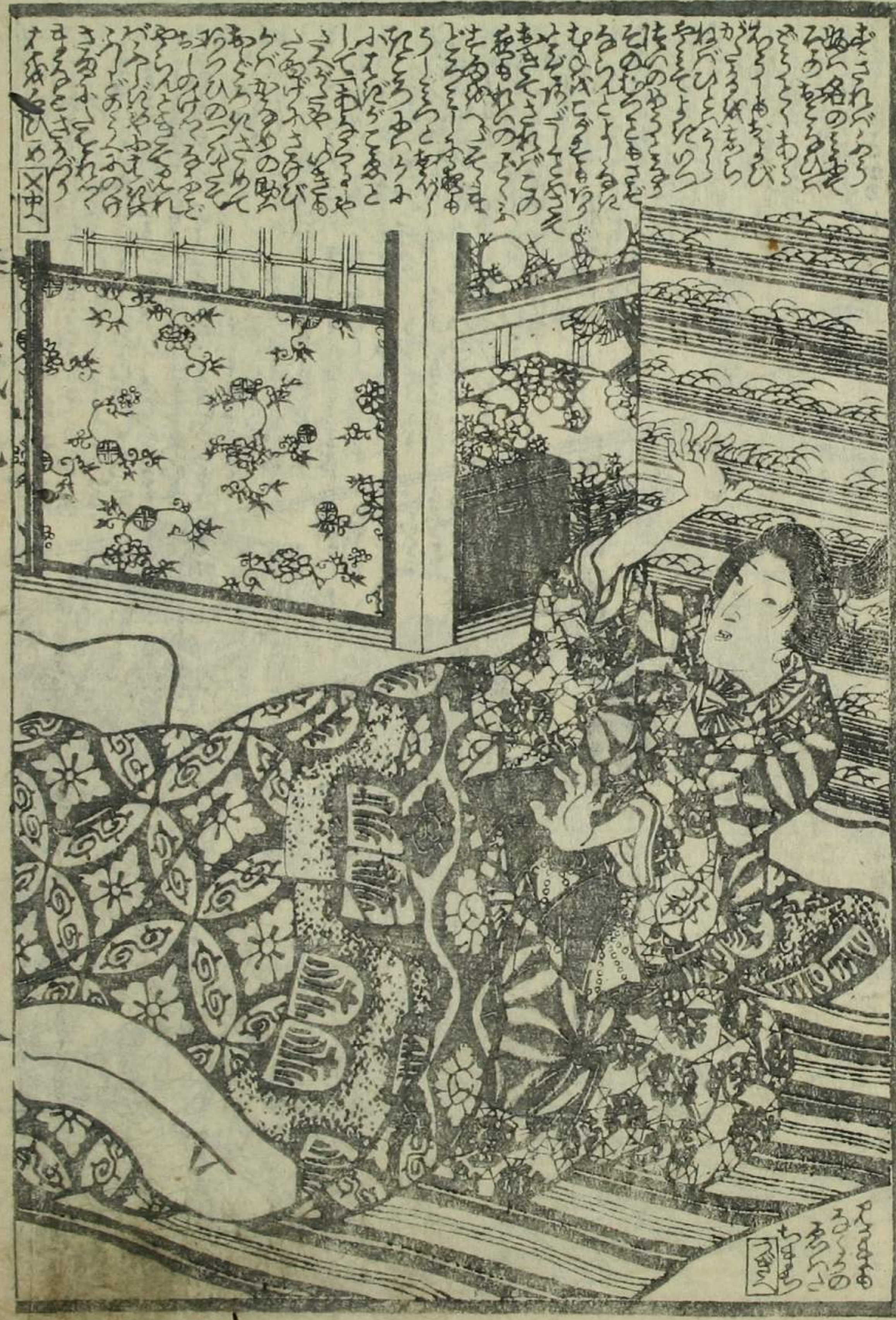




甲
乙



甲
乙





寺



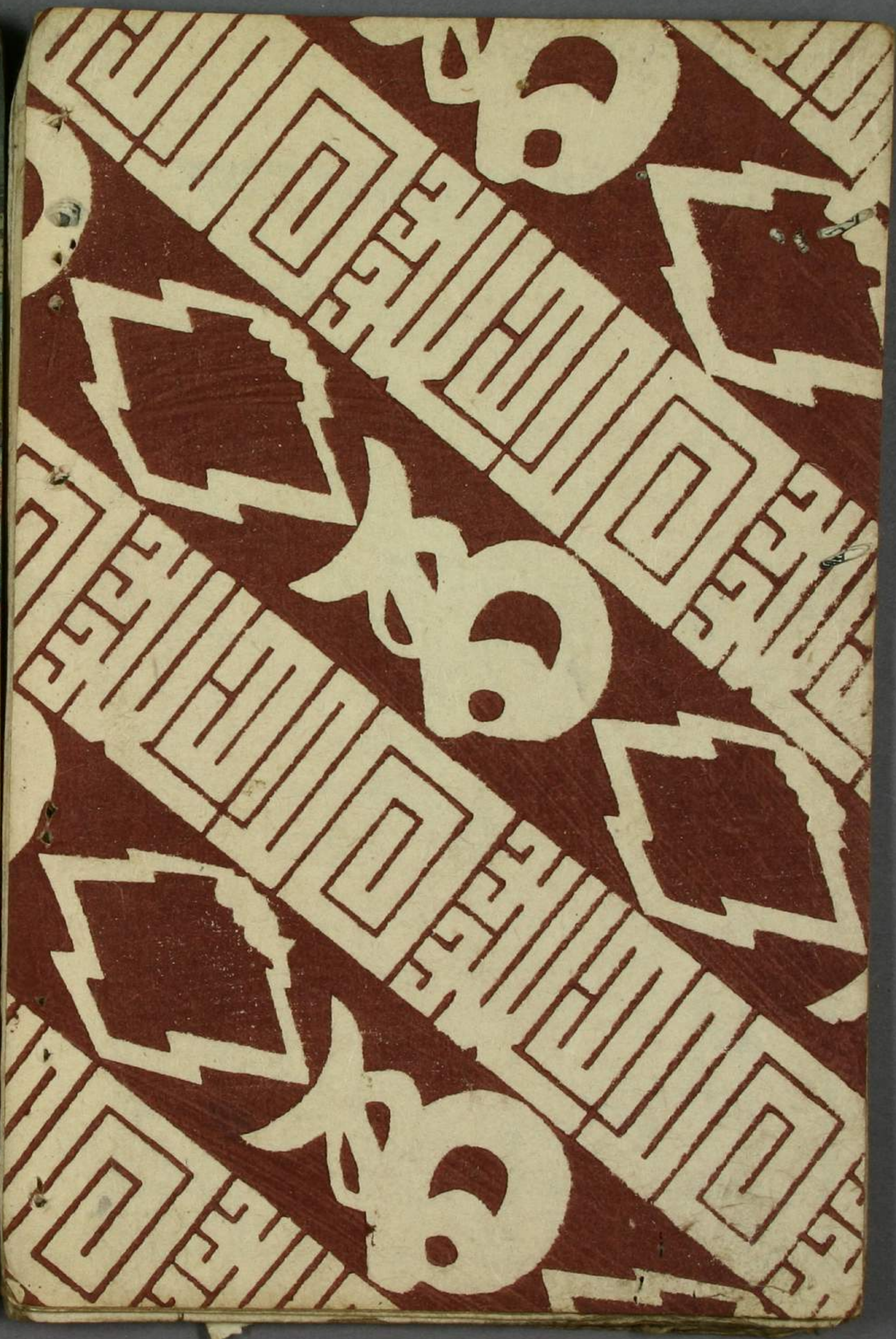
母



九編下

一壽翁
國貞画

九編下
九編下







寺
ヤ
乙



田
八



此の物語は、昔の事だ。ある時、ある所に、
 一男一女が居た。その男は、名を太郎と云ふ。
 女は、名を花子と云ふ。二人は、幼少より
 共に育ち、情が厚い。ある日、太郎は、
 山へ遊びに行き、虎に逢はれ、命を失はせ
 られた。花子は、悲しみに暮れ、山へ出て
 太郎の霊を捜す。ついに、山奥の洞窟で、
 太郎の霊を見つけた。二人は、喜び、
 洞窟を出た。太郎は、霊から命を取り戻し、
 花子と共に暮らす事になった。

寺代



此の物語は、昔の事だ。ある時、ある所に、
 一男一女が居た。その男は、名を太郎と云ふ。
 女は、名を花子と云ふ。二人は、幼少より
 共に育ち、情が厚い。ある日、太郎は、
 山へ遊びに行き、虎に逢はれ、命を失はせ
 られた。花子は、悲しみに暮れ、山へ出て
 太郎の霊を捜す。ついに、山奥の洞窟で、
 太郎の霊を見つけた。二人は、喜び、
 洞窟を出た。太郎は、霊から命を取り戻し、
 花子と共に暮らす事になった。



寺代





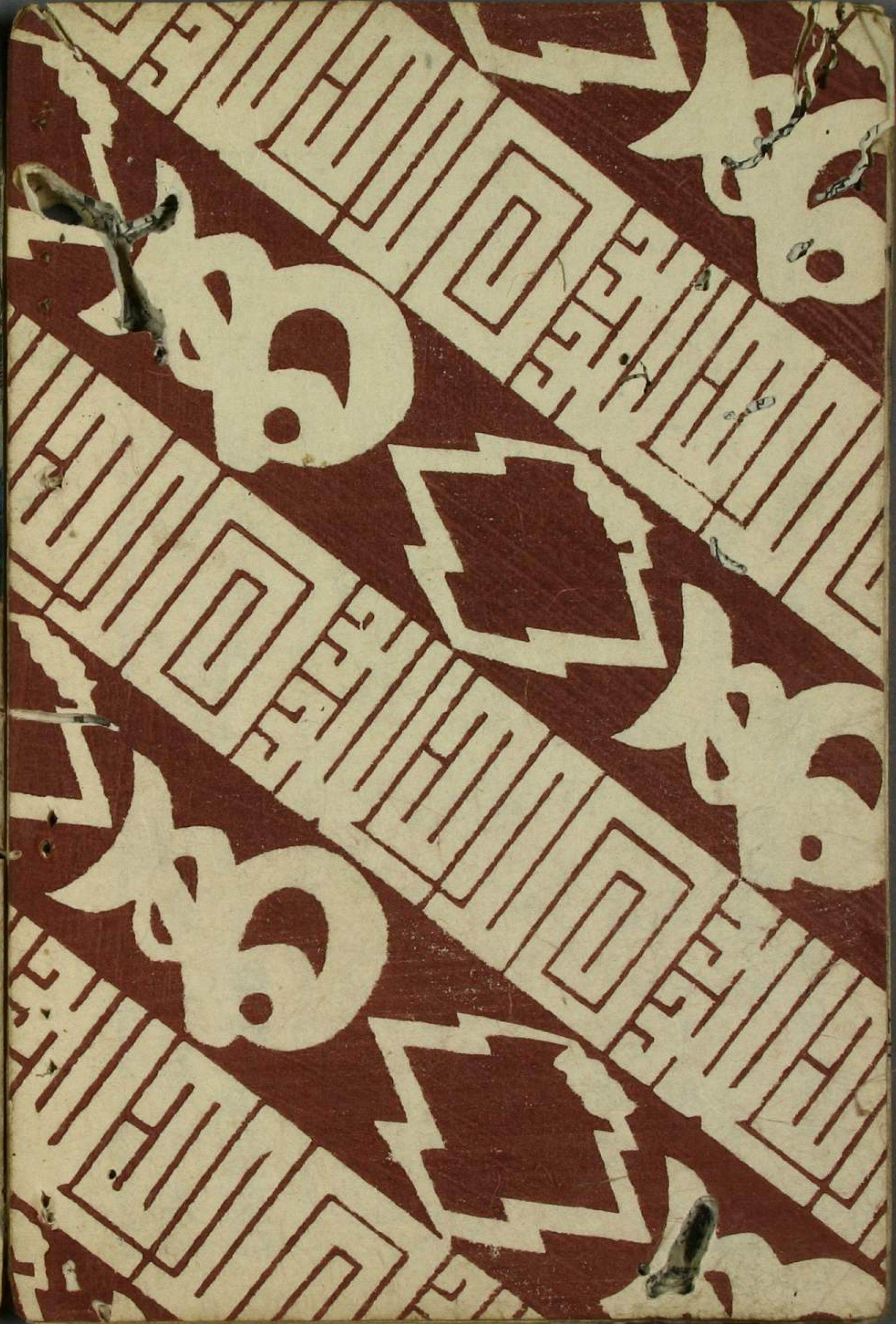


寺
七



冊
十
九







越後國七不思議

佐渡の雙の夫を。加賀の話の
越後小つら。要之助が新瀉ある。
美女好屋その混乱より小菰が毒手
小苦めら。那如法寺の一段小七不思議
議とる言傳入方村の陰火ををん

七不思議之内
逆竹

焼酎火をを假用

薄さろくの鳴

物入で舞臺の

左右の窓蓋と

あろとまるとい
一場の趣向と這

七不思議之内
臭水油の掘井

時代
十海
上



春水作
国貞画

若林堂藏本



寺代

上无
一流軒
魔風

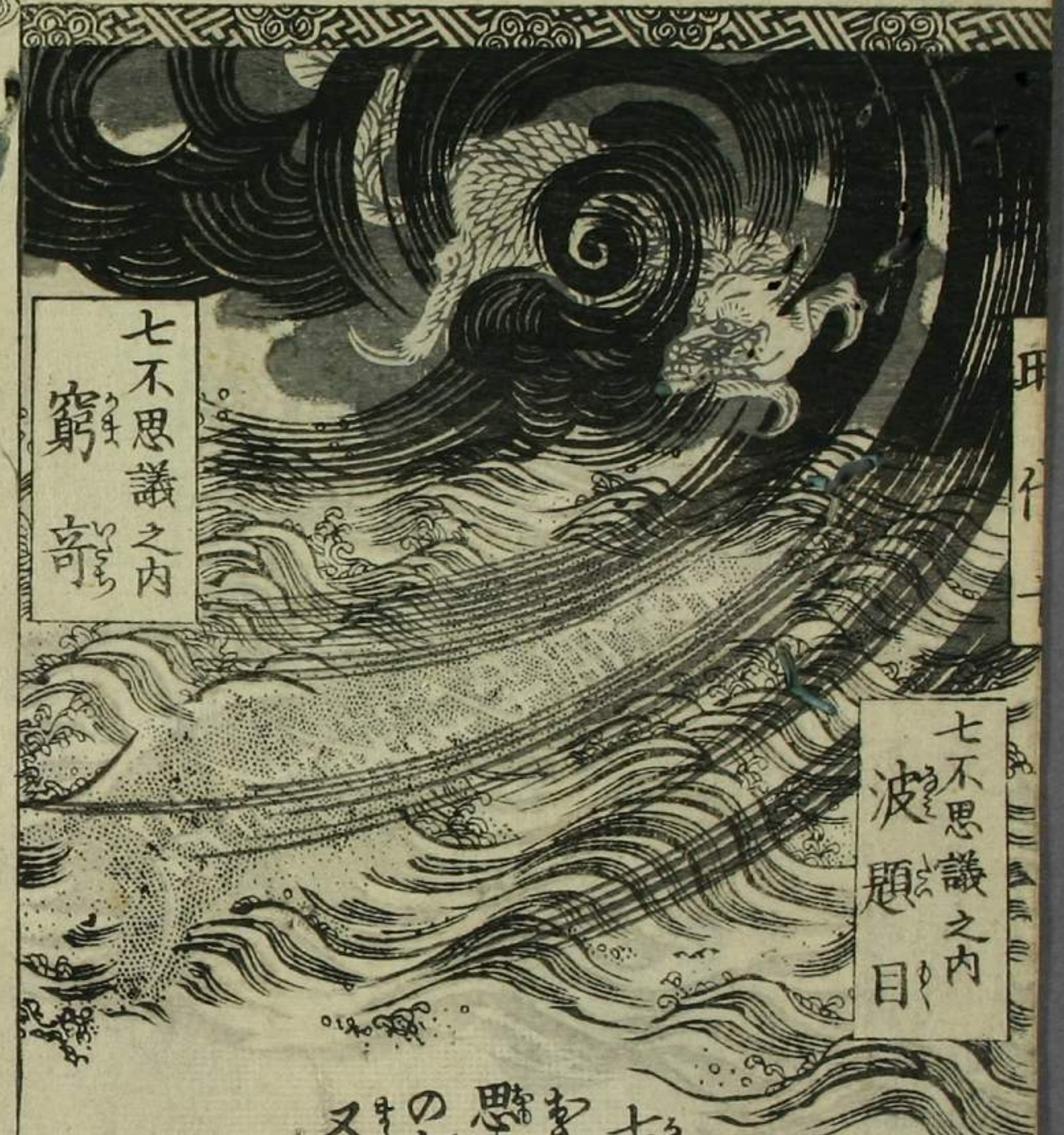
七不思議之内
三度栗



七不思議之内
八房の梅

姉
葉露

七不思議之内
入方村の陰火



七不思議之内
窮奇

七不思議之内
波題目

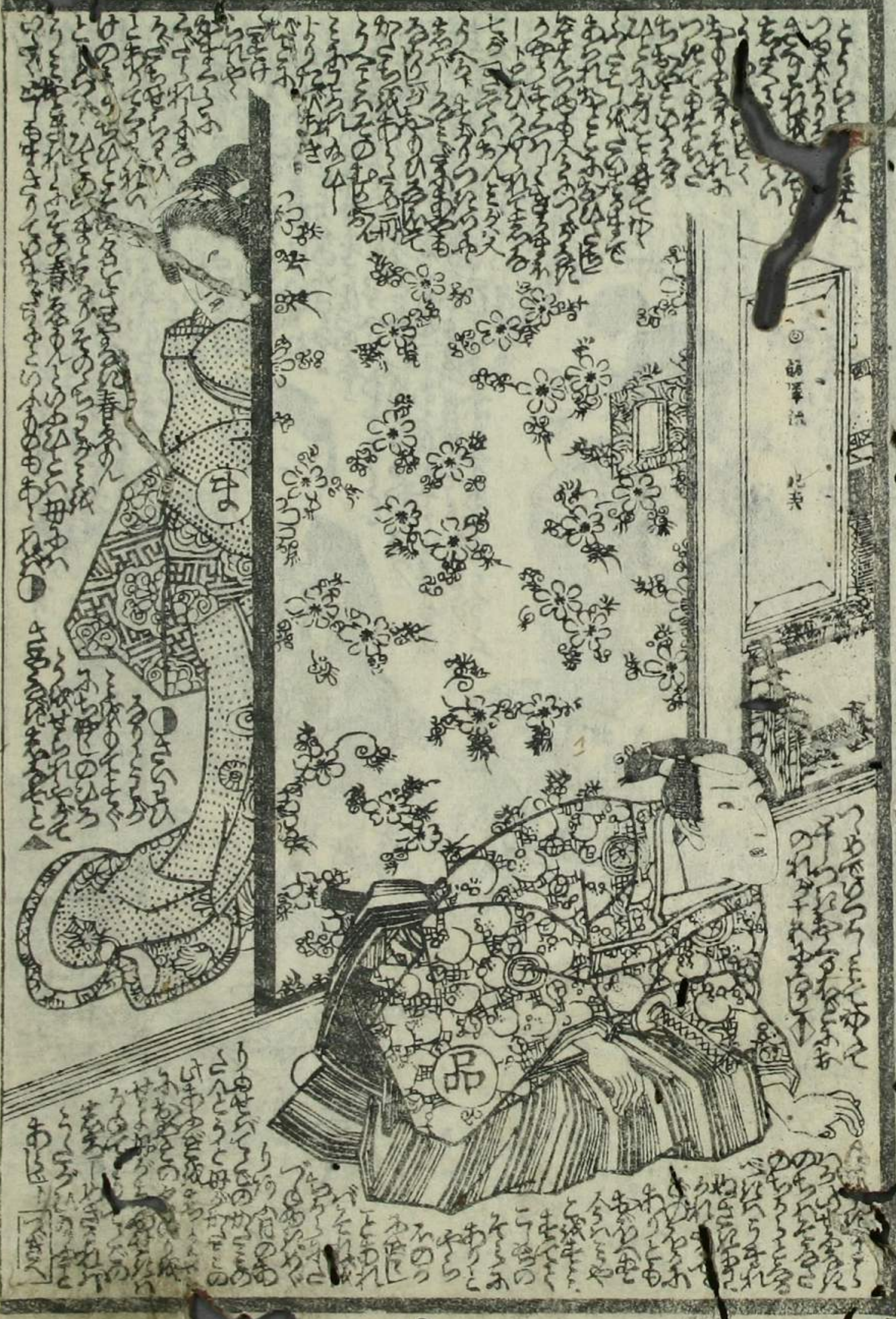
編中に見せしむるを
豫に腹稿置しよ念ひ余
て紙員足らざる仍て次編の
巻首小譲とて後の目安ふ
七不思議とて這頭の口画小描
おさる然ハ予が筆と闘へ
思ふをこの拙作とる不看官
の棄めらる毎歳召さるる
又一不思議の内なりあるん

安政四稔
己初春

為永春水記









Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) are located above and to the left of the illustration. The text is arranged in several columns, with some characters written vertically and others horizontally.

Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) are located below and to the right of the illustration. The text continues the narrative or provides commentary on the scene.



Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) are located above and to the left of the illustration. The text is arranged in several columns, with some characters written vertically and others horizontally.

Vertical columns of handwritten Japanese text (kuzushiji) are located below and to the right of the illustration. The text continues the narrative or provides commentary on the scene.



春水作
國畫

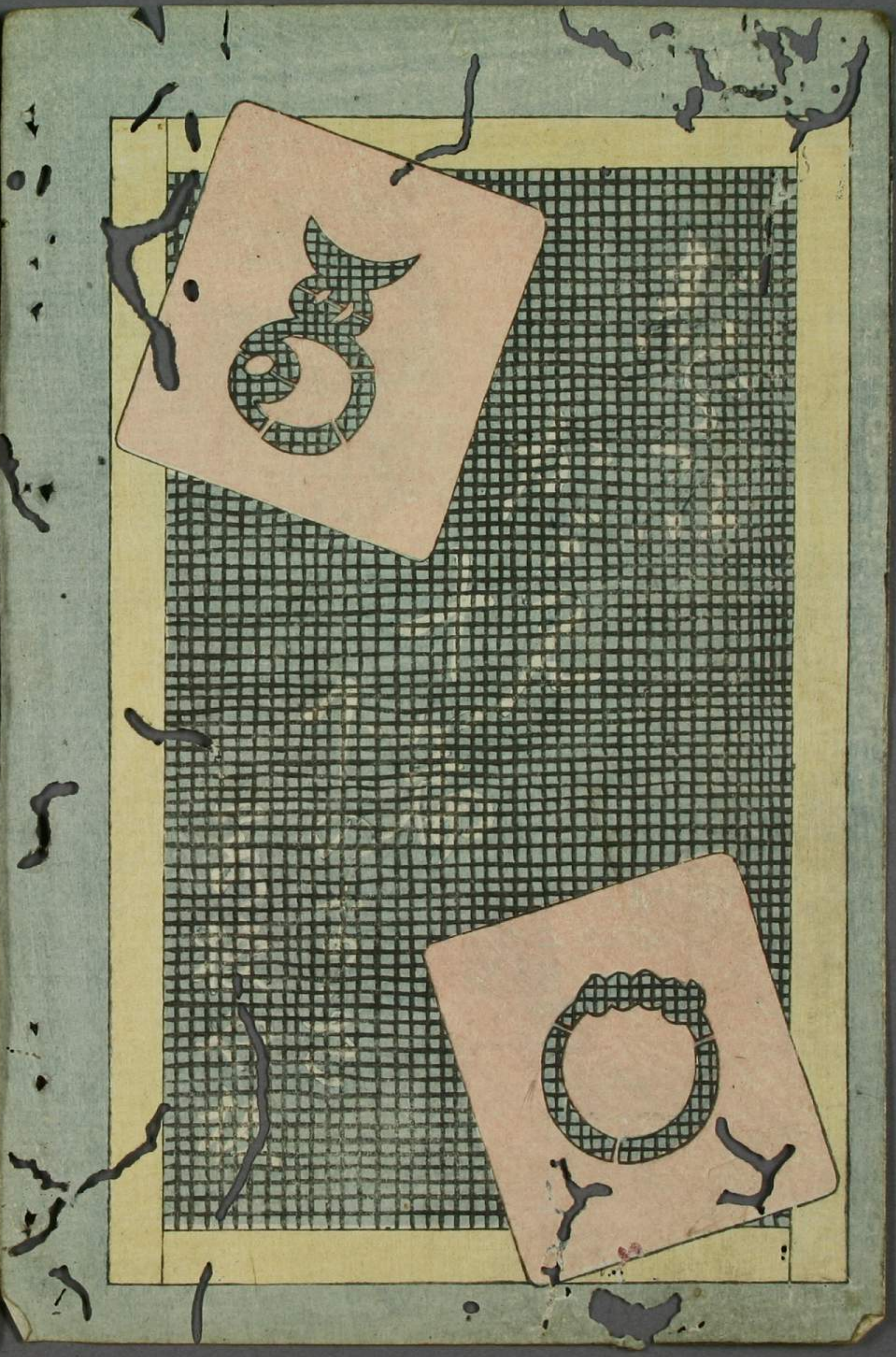


春水作の國畫は、その筆致の清麗さと、人物の神韻に、見る者の心を捉へて置く。尤もその衣紋の細やかなる描き出し、及び背景の簡潔な表現、は、その時代の美術水準を窺はしむるに、極めて貴重な資料と見らるべし。

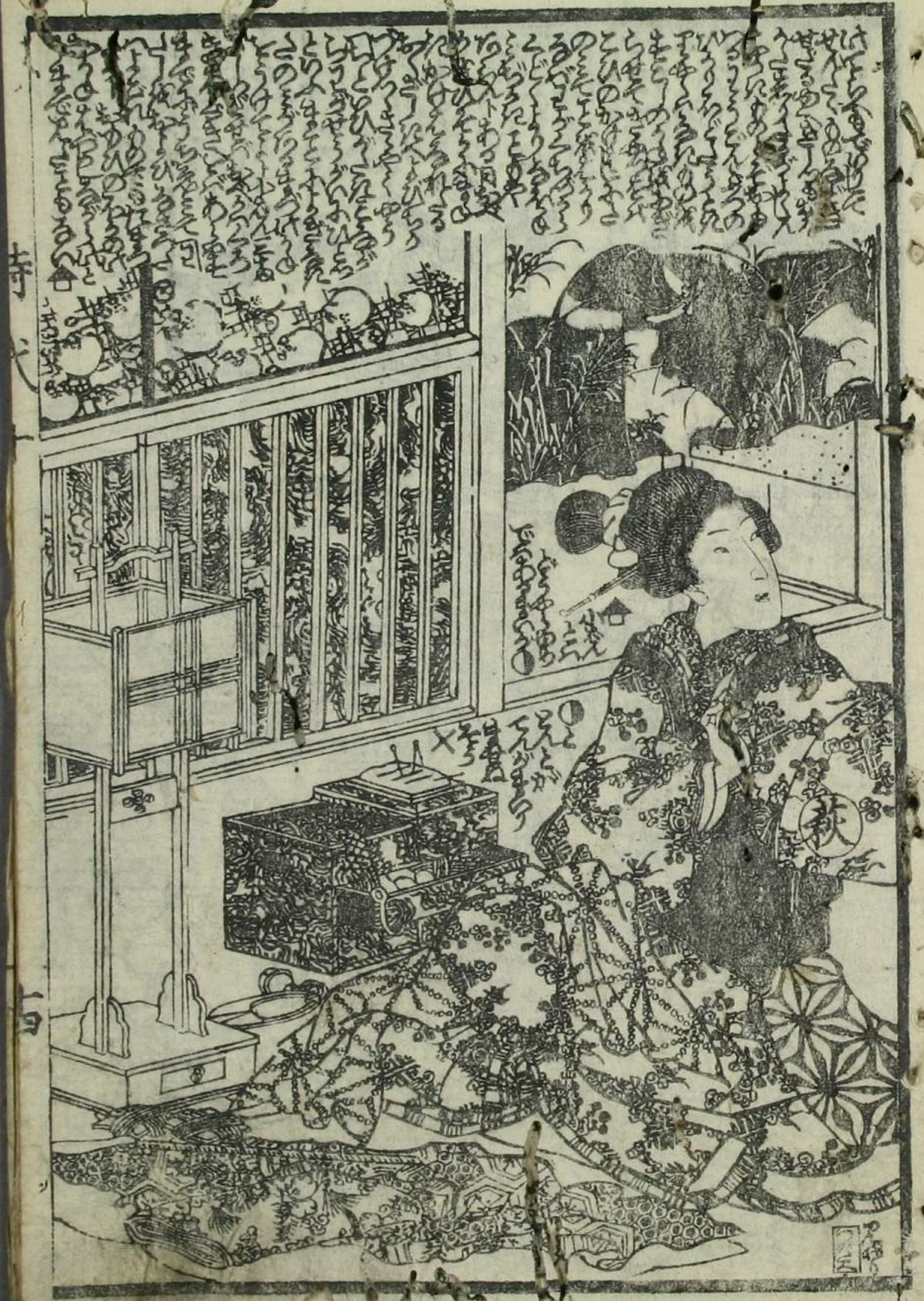
此の國畫は、春水作の筆によるもので、その風格は、室町時代の文人画に近く、簡潔で洗練された表現が特徴である。人物の表情や動作の細やかなる描写、は、その時代の生活様式や審美意識を窺はしむるに、極めて貴重な資料と見らるべし。

手輯 北雪美談時代鑑腹稿豫言 每編四局 合卷二冊

九編の要之助が小萩を伴ひ越後國入方村に到る如法寺へ到る小萩は、住僧蜂沢が奸悪旅放下師野良松連四郎が傳要が画一姉婦の姿繪暗小萩を苦しむる此奇談新撰の娼家美女好屋ふり要が酒狂人を捕めるの一段遊女色衣小花の苦節千曲河原の果合小品七を救ひ元上六を懲と要之助の美勇十編の千曲河原の読ひたふ一流軒が廣あるあるまじし玉石所を異小とするより血筋の糸の縁ぐるて品七小花が世の如くの段降沢が伎倆の条々小萩ふりあし迫るの邪曲阿辺加連四郎が貪欲薄情十二編の要夫婦が元解て復元ふあ小患難辛苦話説愛つる由縁之丞が刀五と密謀かむむを二世尾とたくと取換兒の苦計袖七茂羅市浅水が傳十三編の右の段の遺文よりの口七小花が禍ふあ小支那母魔風が毒惡の説要之助が鏡倉ふりう正香丹四郎の妾名一と劍術の道場をひくも百姓加助を恵ひの段より蜂澤元上本等がうみ及ぶ遠十三編十四編ふも至るべき長談あり總て右の物語のうらふ新根雪若阿貞の方の支と加つ綴らんのも











Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the left page, likely a preface or introductory text.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the central illustration on the left page, providing commentary or dialogue.



Vertical columns of handwritten Japanese text at the top of the right page, continuing the text from the left page.

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the central illustration on the right page, providing commentary or dialogue.

Vertical text in the right margin, possibly a title or additional notes, including the characters '甲' and '乙'.

Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or dialogue, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and is densely packed.



Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a narrative or dialogue, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style (sōsho) and is densely packed.





北雪不美淡
 時代鏡
 十編
 為永啓
 水化
 瓶石國
 貞畫

芝若林
 堂發行



福
 如
 福
 如

新撰 兩 歌 の 傳 記 卷 之 一 上 下 女 篇 上

古き紙ありて引くは板の字は紫の字
他より叶ひ違ふは後文より並に年々出板
真の字を板の上盤に任りは覽に入りの字何事
おろくは中書傳の程伏くは書卷より板先取

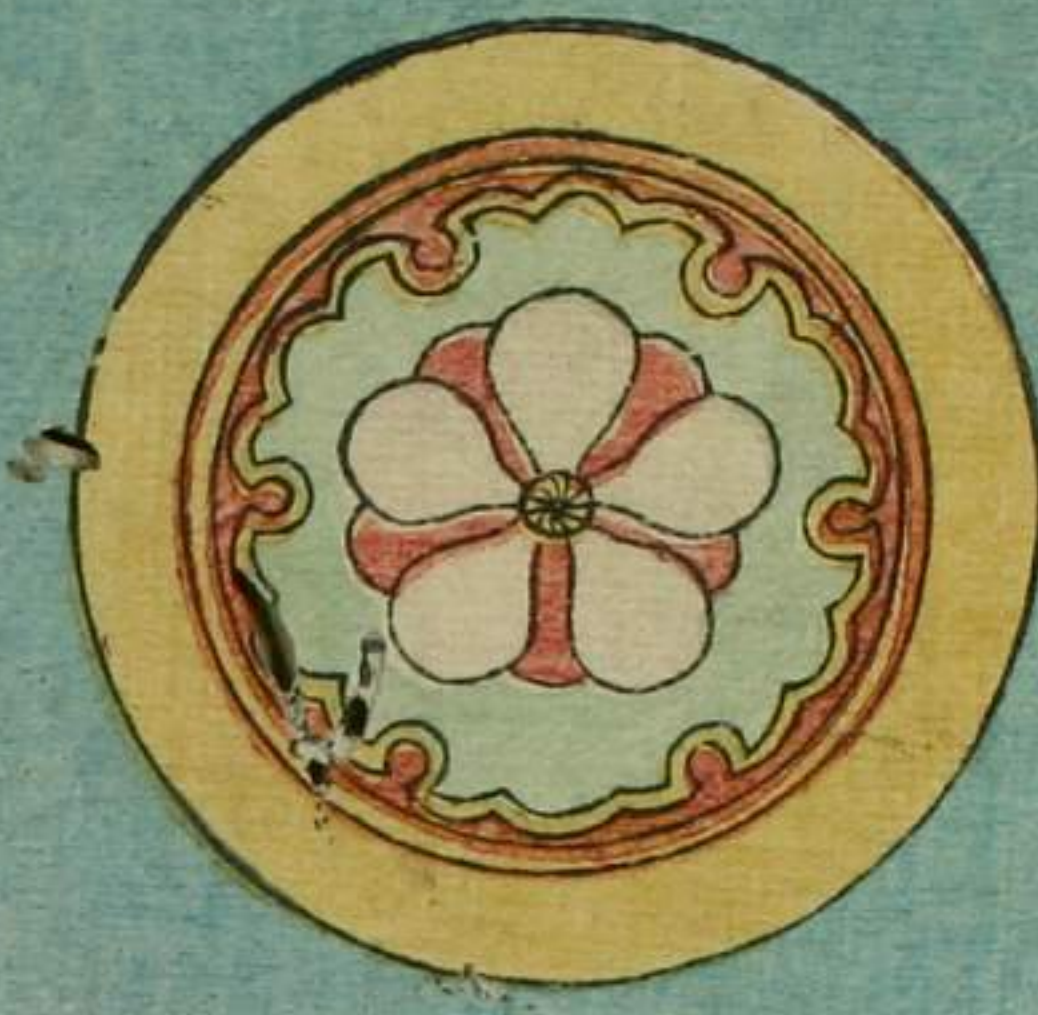
十一
十二



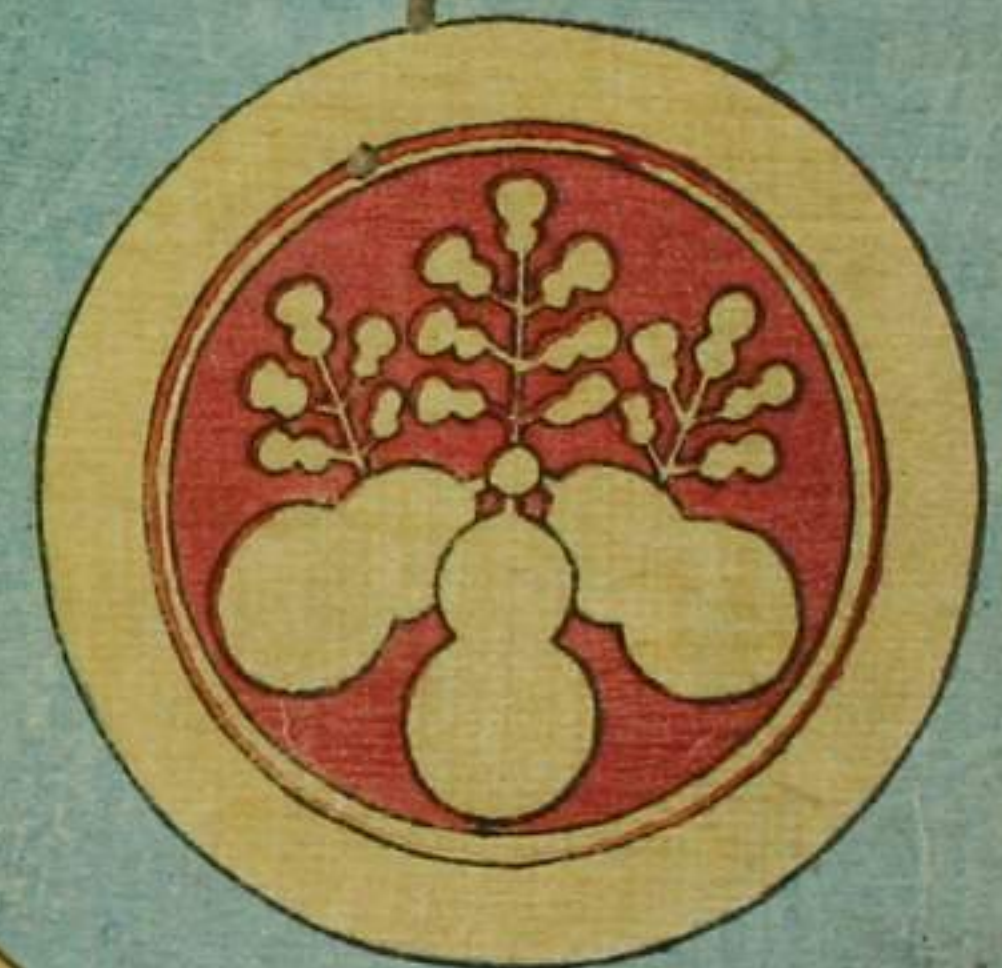
北聖美談時代鏡

十一編上

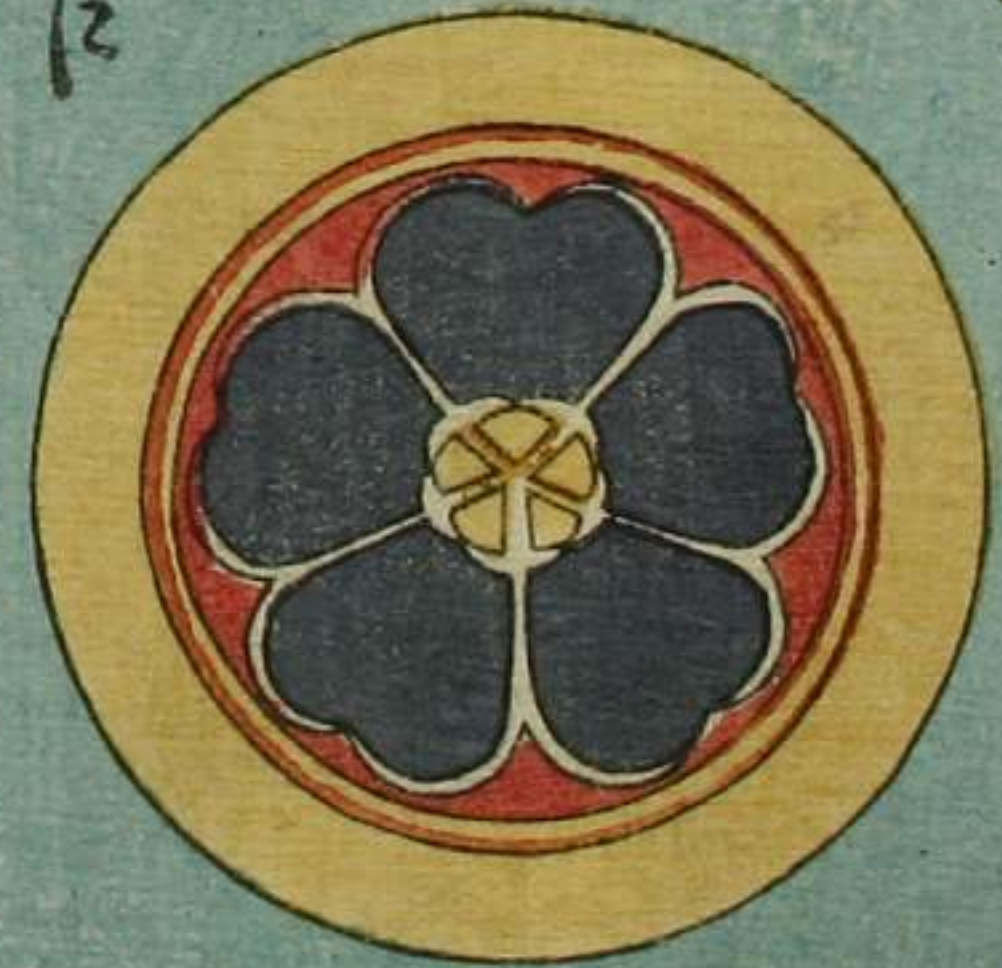
奏
化



小重美談
時代
鑑



拾壹編
為永春水作
一壽齋國貞畫



若林
文庫

越後の國の七不思議前の編の口匣不見せぬ。
 再び言んぬ。けれど就中かの陰火へ入方村身何某と云ふ。
 民家の庭小今多し。是は竹筒と架渡せば、笕小水の通ふこと。
 何れの宅にも自由小取且。夜泊油燈の換りとあり。専農家の
 たまけとある。夏俗の宜く知る所なれども。婦幼稚童疑て奈何
 る。故小蜂沢等が。倦る伎倆。毎るんと思ひの多し。と重て
 爰小録せり。及窮奇毒風をて全く氣形小つら。此風ふら
 者或へ手。或へ足を。鏝めて自と伐られ。此被るるん。人。俚言も
 あれ。風の裡小怪し。形状と描せり。這咸僕。扨撰るれ。雷獸雷
 鳥。あ。念。又。定。具眼多識の鳳君子。不見。死。云
 小あ。例の鹿漏。免。久。

安政五稔戊午初春新鐫

烏永春水記



鳥がふの...
し...
か...
る...
梅...
ら...
ま...
の...
や...



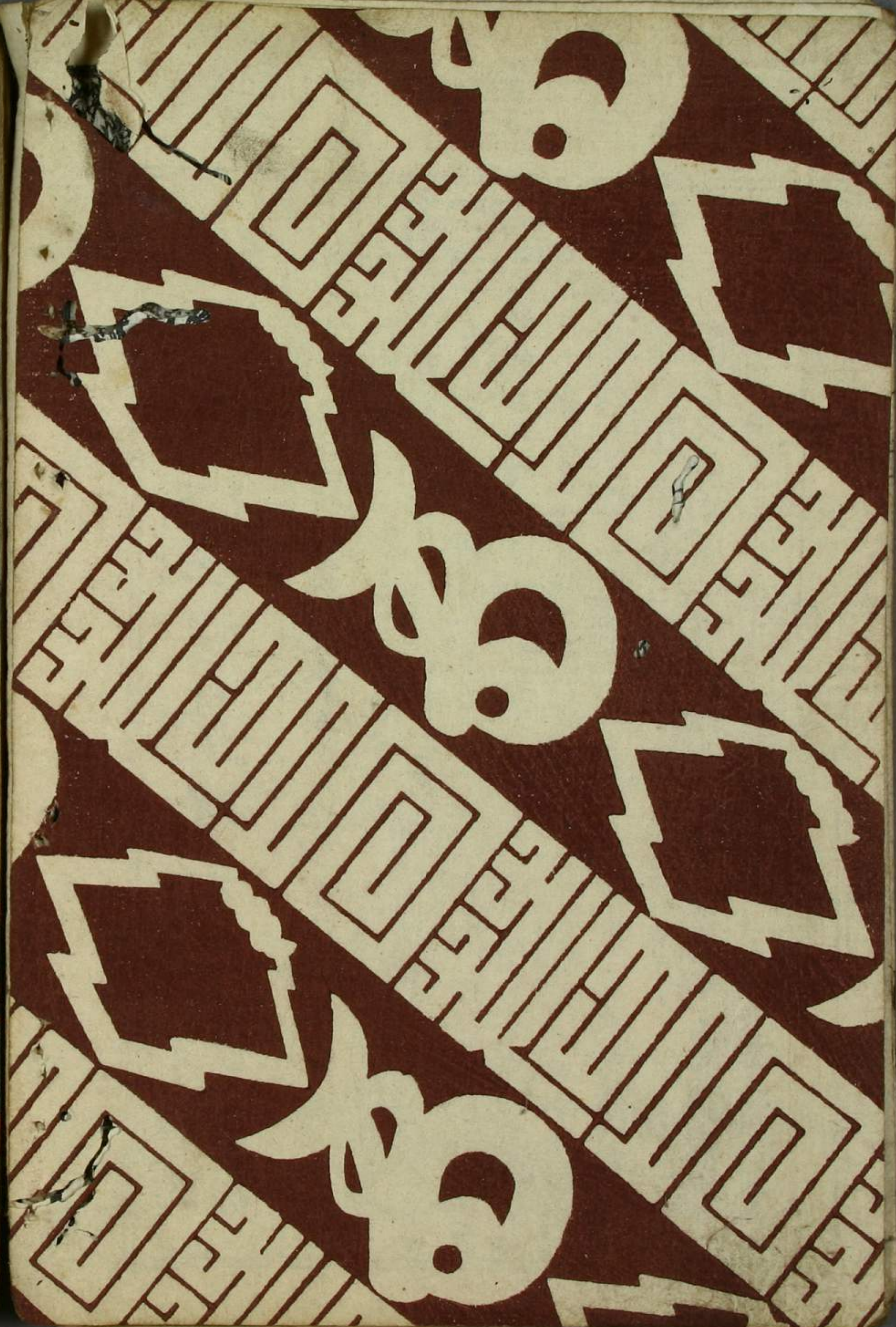








時
仲
二



正

三

六





寺
七
二

十一

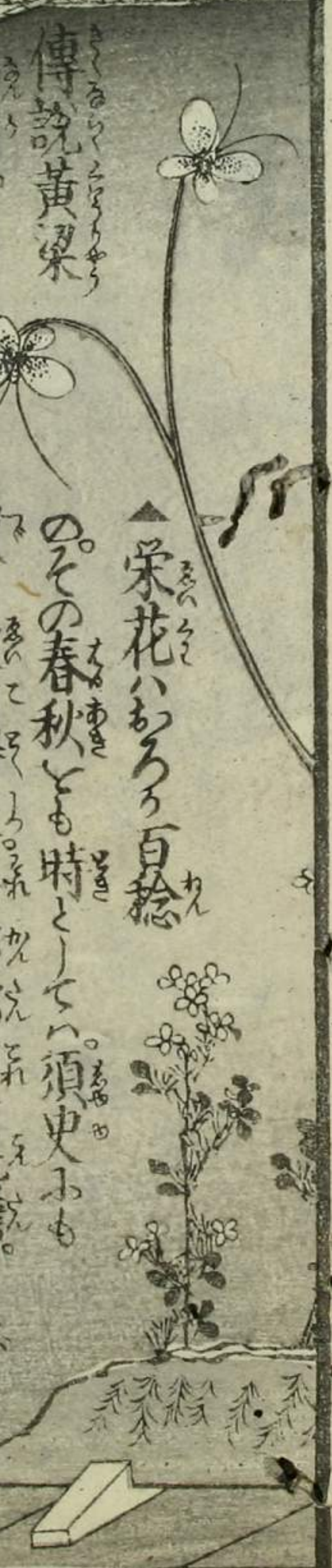


甲
二









傳説黄梁
 南柯の夢も
 夢の大指るから
 作者の机も及然り
 筆頭ふくその
 妄想と編出さ
 と做ふれば南柯
 の虚亦より尚歎
 紙中ふあはせ一世界
 黄梁熟く間ふ五年の
 戊午子春 烏永春水記

采花ハわろろ百拾
 のその春秋とも時としてハ須臾も
 綴る采枯得失夫ハ邯鄲是ハ混騰されハ
 由縁ガ術譲りの夢ハさうりても覚申ハ僕ガ寐
 言も十二編何處で團圓するらむとハ一向夢中
 作左門戯場の夢の夫ららむとハ心の糸の
 行るる一場の糸とるを支ゆハ迹の
 趣向と黒幕の裡ハ躲さんやうもる
 腹の樂屋の見透くまを做らハ果
 夢物ガ此上困ハ模ハ啖せん

中書
 時代形見
 東編
 第一卷

めふ
 教川
 國文堂





遅四郎の後家
 后花作の
 女房
 阿十字



野呂松屋の
 入夫花作
 基ハ
 如法寺
 の住僧
 蜂澤

寺代



臺所
杜氏
金六



丹多阿

悪漢
横嶋
世知平

品七の新婦
小波那





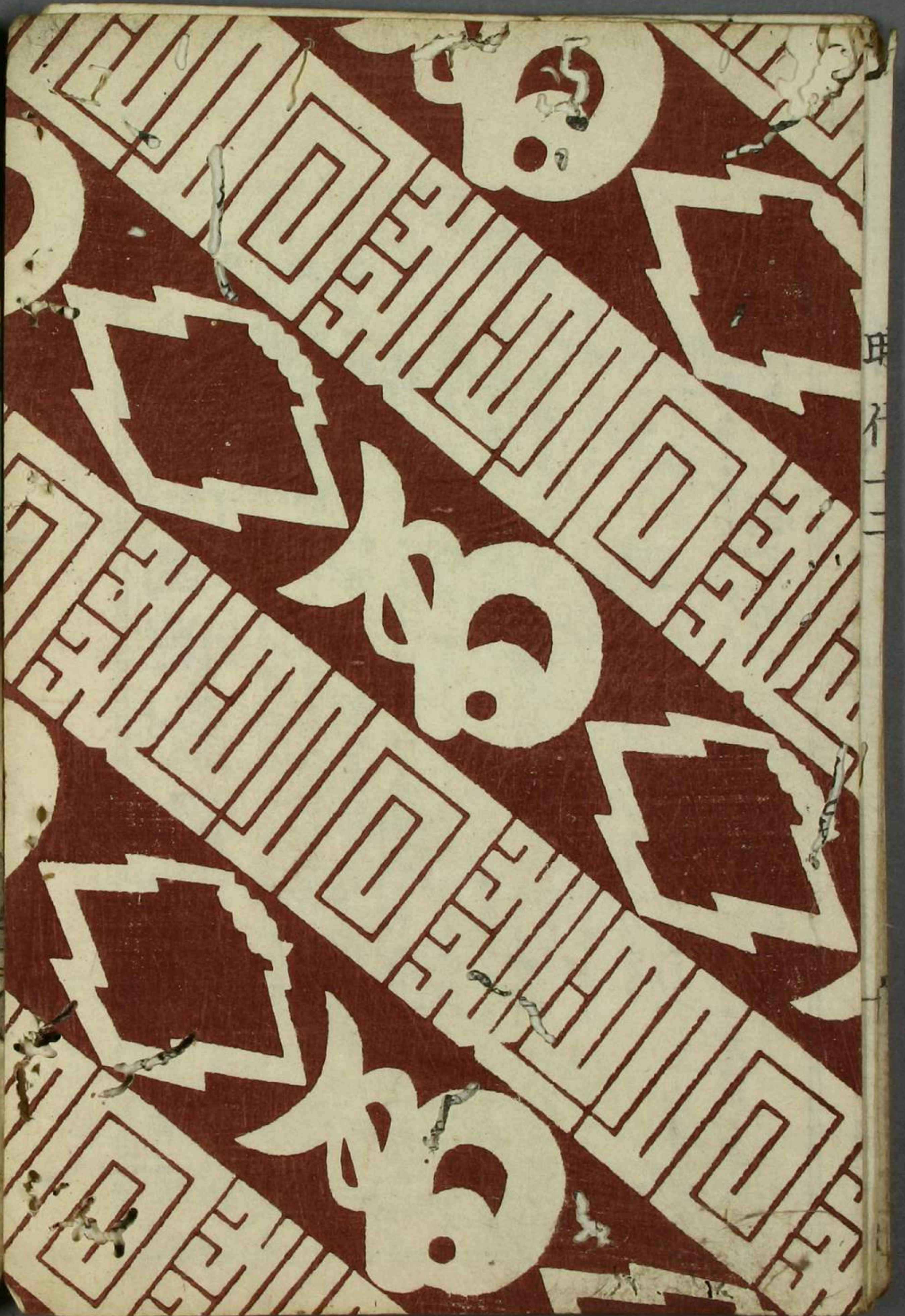
甲子十二



寺代十一



甲子





寺

一



甲

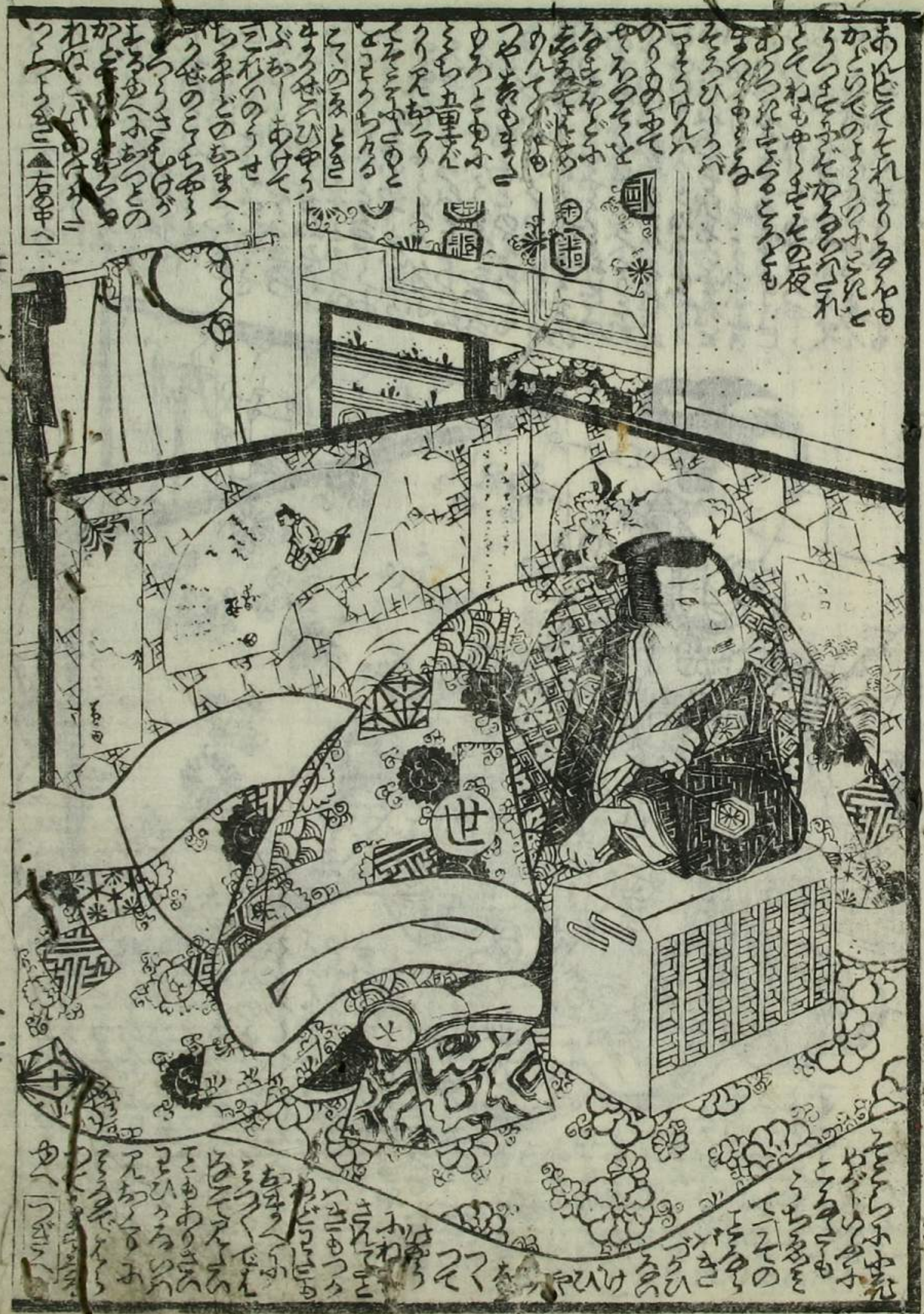
三

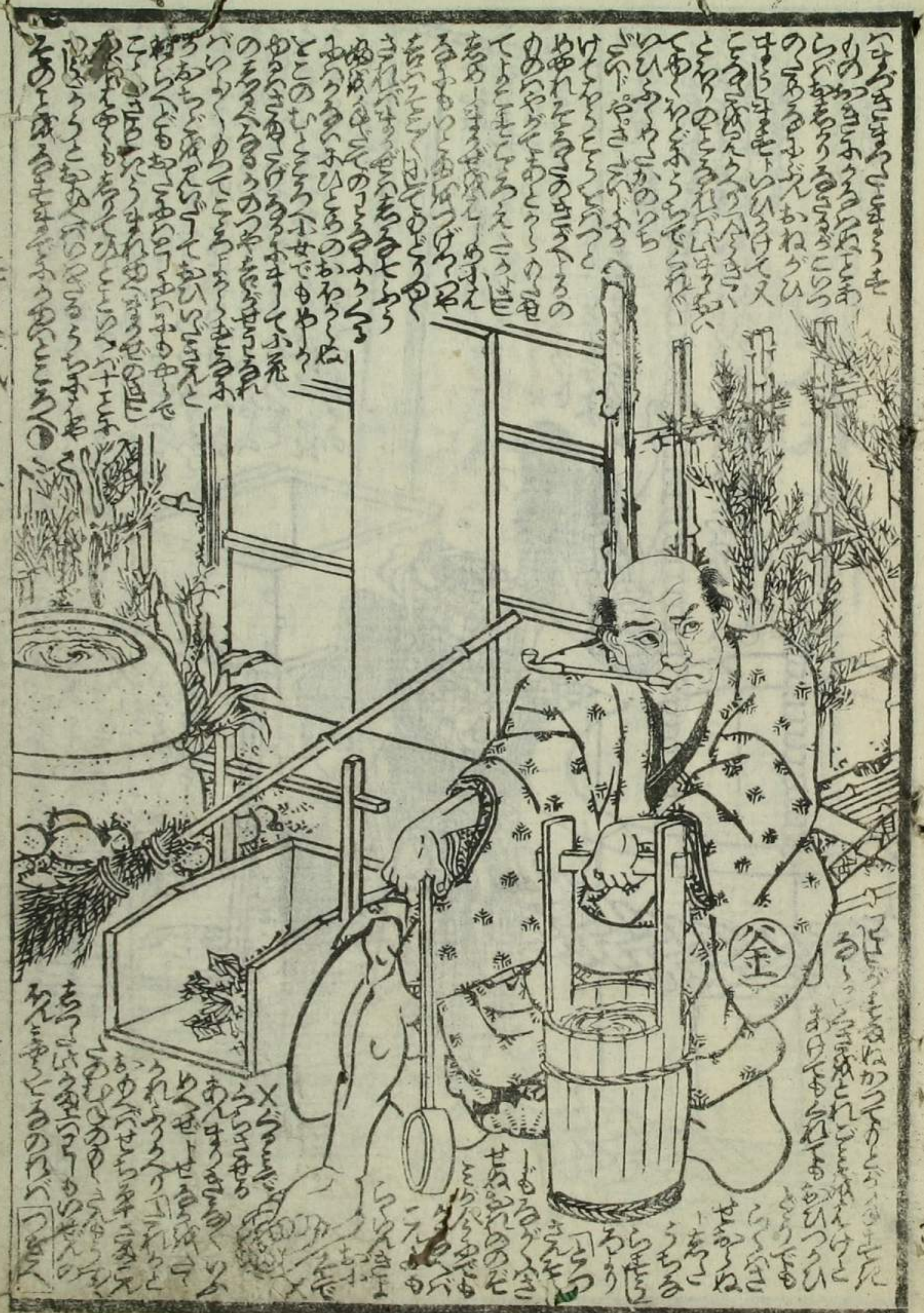




馬十一

十五





Vertical columns of Japanese text located above the illustration on the left page.

Vertical columns of Japanese text located below the illustration on the left page.



Vertical columns of Japanese text located above the illustration on the right page.

Vertical columns of Japanese text located below the illustration on the right page.



拾二編

喜水化
國貞画



